

# 市原市稲荷台遺跡 L 8 地点

2017

張能 徳博

市原市教育委員会

いなりだい  
市原市稲荷台遺跡 L 8 地点

2017

張能 徳博  
市原市教育委員会



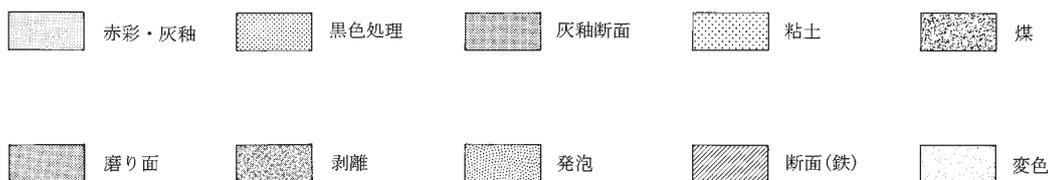
## 例 言

- 1 本書は、集合住宅建設工事に伴い、市原市教育委員会が主体となり実施した稲荷台遺跡L8地点の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書に所収したのは、下記の遺跡である。  
稲荷台遺跡L8地点(調査コード、セ539) 本調査 719㎡  
調査期間 平成27年12月1日～平成28年2月5日 担当 近藤 敏
- 3 稲荷台遺跡L地点の調査報告は、今回の刊行によって終了となる。L地点を対象とした確認調査、本調査については、下記のとおり報告書刊行済みである。
  - (1) 「稲荷台遺跡L地点」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告書』市原市教育委員会2007
  - (2) 「稲荷台遺跡L2・L3地点」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告書』市原市教育委員会2014
  - (3) 「稲荷台遺跡L1・L4地点」市原市教育委員会2015
  - (4) 「稲荷台遺跡L5・L6・L7地点」『平成26年度市原市内遺跡発掘調査報告書』市原市教育委員会2015
- 4 整理・報告事業は平成28年8月1日～平成29年3月まで、市原市教育委員会埋蔵文化財調査センターで行った。遺構遺物作図、遺物写真撮影、原稿執筆、編集担当は木對和紀が行った。また、第三章については鶴岡英一が担当した。  
遺構番号は調査順にそれぞれ割り振られていたが、欠番等が生じていたため、新規に振りなおした。その対照については、新旧番号一覧表に示している。
- 5 平面図及び土層断面図の「K」は攪乱を表している。

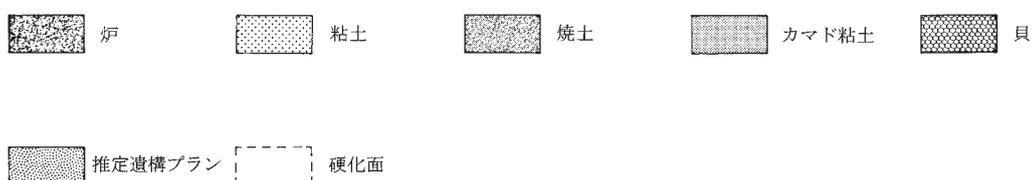
## 凡 例

- 1 本書で示す北は座標北である。また、水準は海拔からの高さを示す。
- 2 本書で使用した国土地理院発行の地図は、1:50,000千葉・姉崎である。
- 3 本書掲載の遺構縮尺は、1:80を原則とした。遺物は、土器・支脚1:4、土器断面・瓦・石器1:3、鉄器1:2、旧石器1:1とした。拓影図は原則1:3としたが、土師器の底部など、一部実測図との整合関係で1:4対処としている。
- 4 土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖 2001年度版』日本色研事業株式会社発行による。
- 5 挿図におけるスクリーントーンの用例については下記によるか、または図中に示した。

### 遺物



### 遺構



## 本文目次

I	はじめに	1
1	遺跡の位置	1
2	調査に至る経緯	2
3	調査の概要	2
4	整理の概要	2
II	遺構と遺物	8
III	稲荷台遺跡L8地点の貝類遺体について	40
IV	まとめ	42

## 挿図目次

第1図	調査遺跡の位置図	1
第2図	稲荷台遺跡L8地点遺構配置図	4
第3図	1～14号遺構実測図	9
第4図	2～14号遺構実測図	10
第5図	1・2号遺構出土遺物実測図	11
第6図	3～5・9・11号遺構出土遺物実測図	12
第7図	15号遺構実測図・出土遺物実測図	16
第8図	16～30・38号遺構実測図	18
第9図	16・18～25号遺構実測図	19
第10図	26～28号遺構実測図、16・18・20号遺構出土遺物実測図	20
第11図	20・21・23～28号遺構出土遺物実測図	24
第12図	28号遺構出土遺物実測図	25
第13図	28号遺構出土遺物実測図	26
第14図	26・29・30号遺構実測図、29号遺構出土遺物実測図	28
第15図	29号遺構出土遺物実測図	29
第16図	29・30号遺構出土遺物実測図	30
第17図	30号遺構出土遺物実測図	31
第18図	30号遺構出土遺物実測図	32
第19図	31～33号遺構実測図、31号遺構出土遺物実測図	34
第20図	31・32・34・35・37号遺構出土遺物実測図	35
第21図	34～37号遺構実測図	37
第22図	遺構外出土遺物実測図	39

## 表 目 次

第1表	出土遺物集計表	3
第2表	新旧番号一覧表	5
第3表	貝類出土量集計	41
第4表	主要二枚貝類殻長計測値集計	41
第5表	出土土器觀察表	43
第6表	出土石器等觀察表	50
第7表	出土金属器等觀察表	50
第8表	出土土製品觀察表	51

## 図 版 目 次

PL. 1	L 8 地点遺構等	調査前～2号遺構
PL. 2	L 8 地点遺構等	1～5号遺構
PL. 3	L 8 地点遺構等	5・7～16号遺構
PL. 4	L 8 地点遺構等	17～21号遺構
PL. 5	L 8 地点遺構等	22～30号遺構
PL. 6	L 8 地点遺構等	28～30号遺構
PL. 7	L 8 地点遺構等	30～33号遺構
PL. 8	L 8 地点遺構等	34号遺構～調査完了
PL. 9	L 8 地点遺物	1～3・11・15号遺構
PL.10	L 8 地点遺物	16・18・20・24～28号遺構
PL.11	L 8 地点遺物	28～30号遺構
PL.12	L 8 地点遺物	1～4・30～32・35・37号遺構・遺構外
PL.13	L 8 地点遺物	5・9・15・16・18・20・21・23～29号遺構
PL.14	L 8 地点遺物	1・2・16・28・30・31・34号遺構・遺構外
PL.15	L 8 地点遺物	28号遺構
PL.16	L 8 地点遺物	29・30号遺構
PL.17	L 8 地点遺物	3・15・20・29～31・35・37号遺構・遺構外



# I はじめに

## 1 遺跡の位置

今回報告する稲荷台遺跡L 8 地点は、埋め立て以前の旧東京湾汀線から東南方向に約3km離れた標高25m前後の台地上に存在し、眼下に白幡川の小谷を望む地点に位置している。

稲荷台遺跡の主要部と想定されているE地点からは、9～10世紀代の掘立柱建物群と祭祀遺構、及びこれに伴う緑釉・灰釉陶器の大量出土から、通常集落とは異なる国府関連遺跡と捉えられている。

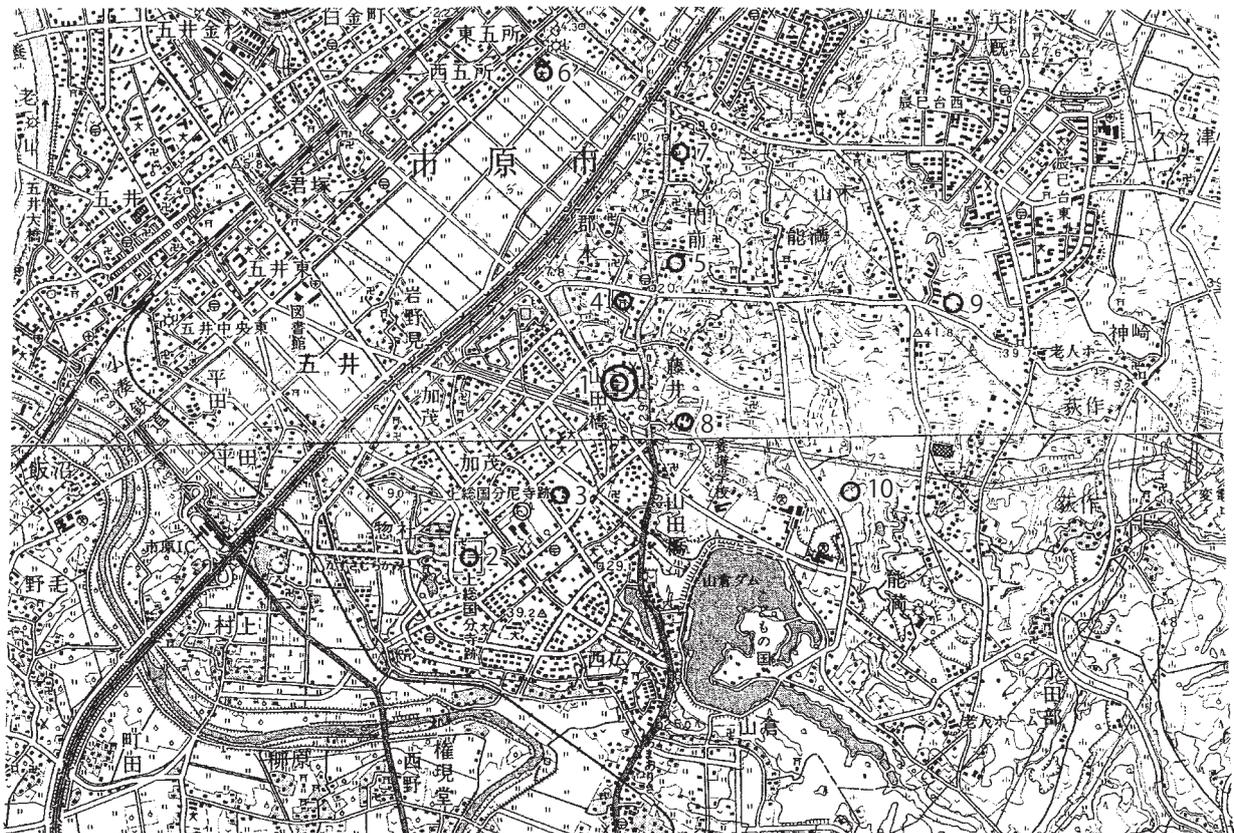
今回調査区の主体である奈良・平安時代の周辺遺跡には、南西方向約0.8kmの地点に上総国分尼寺跡、同1.6km地点に上総国分僧寺跡が存在し、谷を隔てた北側500m前後の地点には市原郡衙推定地や国府推定地の一つでもある古甲遺跡、1.6kmの地点には国分寺成立以前の四葉単弁蓮華文軒丸瓦を検出する光善寺廃寺跡などが存在している。

西側台地下の沖積地には、古代条里制をとどめる市原条里制遺跡や古代木器を多数検出した五所四反田遺跡、東側の台地上には廃寺等の重要遺跡と考えられる千草山遺跡、上細工多遺跡、南大広遺跡等が所在している（第1図）。

今回調査地点の北側には西側から入り込む小谷が存在しているが、周辺の小字名は「在庁免」が転化したと想定される「在長面」であり、国府との関連が想定されている。

### 第1図 関連遺跡

- 1 稲荷台遺跡
- 2 上総国分寺跡
- 3 上総国分尼寺跡
- 4 市原郡衙推定地
- 5 古甲遺跡
- 6 五所四反田遺跡
- 7 光善寺廃寺跡
- 8 千草山遺跡
- 9 南大広遺跡
- 10 上細工多遺跡



第1図 調査遺跡の位置図（1：50,000）国土地理院「姉崎」「千葉」

## 2 調査に至る経緯

今回の発掘調査は、市原市山田橋3丁目11-33地先における集合住宅建設工事に伴い実施されたものである。同届出地は、平成18年6月23日付け教文第3号の158を受け、埋蔵文化財の確認調査を実施したが、「埋蔵文化財の範囲及び取扱いに関する基準」第14条第1項に基づき本調査を実施せず、埋蔵文化財の保存が図られてきた。その後、張能徳博氏により、工事に先行する平成27年9月25日付けで、文化財保護法93条第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届け出」が千葉県教育委員会教育長及び市原市教育委員会教育長宛に提出された。

届け出を受け協議を行った結果、現状保存が困難な工事範囲719m<sup>2</sup>に対し、今回の本調査を実施することになった。

## 3 調査の概要

旧稻荷神社の境内地である稻荷台遺跡L地点については、平成18年度に確認調査を実施している。L1・L4地点については、それぞれ平成24年度及び平成25年度に調査を実施し、平成27年度に報告書を刊行した。また、L2・L3地点及びL5・6・7地点については、それぞれ平成25・26年度の国庫補助事業として、調査の実施と報告書を刊行した。今回報告するL8地点は、民間開発による集合住宅の建設工事に伴い、平成27年度に発掘調査を実施したものである。今回の調査報告書の刊行により、L地点についての発掘調査は終了となる。

なお、公共座標については、日本測地系座標を用いたが、将来的な世界測地系座標に対応できるよう対処している。

## 4 整理の概要

### (1) 遺物

検出された遺物は、整理作業の過程において遺構ごとに種別及び総数の把握に努めた。その結果、総数5,353点重量にして52,960.8gの土器片と、80点6,252.3gの礫・石器、34点1,082.7gの金属器等、60点13,139.7gの土製品を検出している。各遺構から出土した遺物の詳細については、第1表にまとめた。

### (2) 遺構番号について

調査時の遺構番号については、遺構検出順に割り振られていた。そのため、重複する遺構間での遺構番号の開きが大きく、また、欠番となった遺構も多かったため、整理報告に際し新規に振りなおし、新旧遺構番号の対応関係については第2表の新旧番号表にまとめた。

第1表 稻荷台遺跡L8地点出土遺物集計表

新番号	旧番号	性格	土師器	須恵器	重量	吹生土器	ニエチエ土器	重量	總文土器	重量	灰・釉・線	重量	中近世土器・陶器	重量	土器合計	重量	磯	重量	石器	重量	石器	重量	鐵滓	重量	鐵滓	重量	金屬器	重量	金屬器等合計	重量	土製品	重量						
1	2	住居跡	199	1,752.8	7	129.1	14	84.0	2	27.0			1	9.0	223	2,001.9	2	82.1	2	82.1			3	39.2	3	82.1	3	39.2	1	1,048.0								
2	8	住居跡	240	2,489.1	1	6.6	32	136.3							273	2,632.0	2	19.9											0	0.0	4	1,150.0						
3	1	住居跡	412	5,944.5	1	13.8	75	515.0	2	60.5					490	6,533.8	15	1,006.0	2	517.2									0	0.0								
4	6	住居跡	32	94.8			9	200.5							41	295.3	2	17.5											0	0.0								
5	21	住居跡	11	42.0	1	9.7	3	83.7							15	135.4													0	0.0								
6	11	溝	48	118.4											48	118.4	1	6.4											0	0.0								
7	17-P8	土坑					6	40.4							6	40.4													0	0.0								
8	17-P7	土坑	6	90.8											6	90.8													0	0.0								
9	17-P6	土坑	2	5.0			12	48.3							14	53.3													0	0.0								
10	17-P5	土坑													0	0.0													0	0.0								
11	17-P4	土坑	5	111.6	3	244.0									8	355.6													0	0.0								
12	17-P1	土坑	10	30.7											11	45.0													0	0.0								
13	17-P2	土坑	6	5.0	1	75.4					1	14.3			7	80.4													0	0.0								
14	17-P3	土坑			1	9.5									1	9.5													0	0.0								
15	4	住居跡	9	43.4	3	40.6	48	590.7							60	674.7	3	880.0	1	160.3								4	1,040.3	0	0.0							
16	7	住居跡	600	3,809.3	1	31.0	312	1,497.9	1	70.1	1	4.0	1	1.0	916	5,413.3	2	8.0	1	3.0								2	8.0	1	3.0	3	427.8					
17	29	住居跡	15	41.2	1	0.9	13	66.2							29	108.3	2	46.4											2	46.4	0	0.0						
18	5	住居跡	82	815.2			202	2,026.3	1	12.6					208	2,874.9	1	211.0											1	211.0	0	0.0						
19	3	住居跡	41	192.0			3	26.0							44	218.0													0	0.0								
20	9	住居跡	235	5,429.7	1	6.1	105	642.8	1	5.9					342	6,084.5	7	616.3	1	447.8								8	1,064.1	3	11.2	1	6.1					
21	18	土坑	11	104.2			8	53.7							19	157.9													0	0.0								
22	20	住居跡	1	7.7	1	17.7	21	325.6							23	351.0	2	780.3											2	780.3	0	0.0						
23	28	住居跡	17	137.3	1	12.2	11	180.2							29	329.7													0	0.0								
24	10	住居跡	203	3,215.7	5	58.3	128	426.7							337	3,713.0													0	0.0								
25	13	溝	13	338.0											13	338.0													0	0.0								
26	15・26	住居跡	59	303.6	1	34.1	38	517.3	1	10.3					99	865.3													0	0.0								
27	12(B)	住居跡	4	198.2											4	198.2													0	0.0								
28	12(A)	住居跡	327	2,633.6	19	446.6									351	3,115.1	5	13.0											5	13.0	9	34.9	3	9.2	12	44.1	12	4,360.6
29	19・32	住居跡	341	4,752.3	11	425.4	22	211.8	1	11.1					375	5,400.6	3	80.4	1	448.5									4	528.9	0	0.0	3	883.8				
30	14・27	住居跡	501	3,753.9	28	1,394.6	12	59.7							544	5,473.5	7	390.9	3	27.3									10	418.2	4	761.1	7	819.1	9	2,684.0		
31	33	住居跡	31	225.2	2	25.2	34	158.4							67	408.8													0	0.0								
32	34	住居跡					6	326.4							6	326.4													0	0.0								
33	35	土坑			2	21.6									2	21.6													0	0.0								
34	22	住居跡					10	79.0							10	79.0													0	0.0								
35	23	土坑	1	15.2											6	38.2													0	0.0								
36	24	土坑					4	16.9							6	38.2													0	0.0								
37	16	溝	107	406.7	14	249.1	5	36.0							127	1,154.6	5	174.6											5	174.6	2	87.9	13	686.6				
遺構外			454	2,364.8	19	272.0	32	248.8	9	253.8					6	85.0	520	3,224.4	10	178.4	3	140.0	3	318.4	2	41.9	1	20.0	3	107.9	13	686.6						
合計			4,023	39,471.9	124	3,523.5	1,165	8,598.6	1	70.1	19	391.3	9	314.5	12	590.9	5,353	52,960.8	69	4,511.2	11	1,741.1	80	6,252.3	20	965.0	4	12.2	10	105.5	34	1,082.7	60	13,139.7				



第2図 稻荷台遺跡L8地点遺構配置図

第2表 稻荷台遺跡L8地点新旧番号一覧表

新遺 標No.	旧遺 標No.	時期	性格	規模	主 軸	ピット (深さ)	火床施設	壁 高	周溝・溝	備 考	特記事項
1	2	平安	住居跡	残存長径2.92m 残存短径1.86m	-	-	-	東29.4cm 北26.3cm	-	床面の一部礫化	平成18年の確認調査トレンチによ り、一部削平。
2	8	平安	住居跡	推定長径4.16m 残存短径3.40m	N-28°-W	P1 48.1cm P2 46.0cm P3 61.0cm	カマド北壁。未調査	西14.6cm 北19.6cm	西側深さ6~12cm	P1~ P3は主柱穴。カマド流出粘土がカマド付近に堆積。	主軸方位はP1、P3を結ぶ軸方位よ り測定。
3	1	古墳中期	住居跡	長径5.70m 残存短径2.84m	N-17°-E	P1 27.2cm P2 14.7cm P3 68.8cm P4 12.3cm	炉 火床長軸N-51°-W 長さ36cm幅26cm深さ4.5cm。	東16.8cm 南17.4cm	-	-	平成18年の確認調査トレンチによ り、一部削平。
4	6	弥生後期	住居跡	残存長径5.42m 短径4.96m	N-30°-W	P1 2.5cm P2 16.5cm P3 20.3cm	炉 火床長軸N-27°-W 長さ88cm幅40cm深さ3.5cm	東31.9cm 北4.7cm	-	床面の一部礫化。焼土堆積あり。	-
5	21	弥生後期	住居跡	残存長径3.0m	-	-	炉 火床長軸N-2°-W 長さ84cm残存幅32cm深さ22.3cm	北12.1cm	-	床面礫化。焼土堆積あり。	-
6	11	近世	溝	残存長9.30m 残存幅0.5~0.74m 深さ10cm前後	-	-	-	-	-	3号竪穴を削平する。	覆土に笠永火山灰を含む。
7	17 P8	不明	土坑	残存長径1.26m 残存短径0.34m 深さ32.8cm	-	-	-	-	-	-	-
8	17 P7	不明	土坑	長径1.04m 短径1.00m 深さ18.4cm	N-11°-W	P1 10.8cm P2 13.5cm	-	-	-	-	-
9	17 P6	不明	土坑	残存長径0.84m 残存短径0.70m 深さ40.6cm	-	P1 73.4cm	-	-	-	-	-
10	17 P5	不明	土坑	長径0.80m 短径0.58m 深さ16.5cm	N-68°-E	P1 28.4cm	-	-	-	-	-
11	17 P4	不明	土坑	長径0.72m 短径0.60m 深さ8.6cm	N-90°-W	-	-	-	-	-	-
12	17 P1	不明	土坑	長径0.82m 残存短径0.62m 深さ25.0cm	N-32°-W	P1 32.6cm P2 12.0cm	-	-	-	-	-
13	17 P2	不明	土坑	長径0.96m 短径0.80m 深さ8.9cm	N-70°-E	-	-	-	-	-	-
14	17 P3	不明	土坑	長径1.16m 短径0.82m 深さ27.7cm	N-63°-W	-	-	-	-	-	-
15	4	弥生後期	住居跡	長径5.88m 短径5.64m	N-38°-W	P1 103.5cm P2 118.9cm P3 118.0cm P4 96.0cm P5 15.5cm P6 16.7cm	炉 火床長軸N-47°-W 長さ78cm幅46cm深さ7.4cm	東59.5cm 南68.2cm	東側深さ7cm前後	P1~ P4は主柱穴。	-

新遺 構No.	旧遺 構No.	時期	性格	規模	主 軸	ピット (深さ)	火床施設	壁 高	周溝・溝	備 考	特記事項
16	7	古墳前期	住居跡	残存長径5.40m 短径5.52m	N-47°-W	P1 56.2cm P2 57.8cm P3 51.2cm P4 56.8cm P5 35.7cm P6 47.7cm P7 22.3cm	伊 火床長軸N-61°-W 長さ70cm幅10cm深さ13.2cm	東61.0cm 西59.0cm 南60.3cm 北69.8cm	南側深さ5~12cm	P1~P3は主柱穴。	
17	29	不明	住居跡	残存長径3.26m 残存短径0.90m	-	-	-	南29.5cm	-		
18	5	古墳前期	住居跡	長径4.26m 短径4.20m	N-30°-E	P1 14.4cm	炉 火床長軸N-19°-E 長さ52cm幅32cm深さ5.5cm	東29.0cm 西25.0cm 南26.2cm 北25.3cm	-		
19	3	弥生後期	住居跡	残存長径3.50m 残存短径2.32m	N-32°-W	P1 14.2cm P2 26.3cm	-	西18.3cm 北18.7cm	-	P1・P2の中心を結ぶラインを残存長径、P1の中心を通り長径と直行するラインを残存短径とし、長径軸を主軸とした。	
20	9	古墳前期	住居跡	長径4.52m 短径4.44m	N-30°-W	P1 47.8cm P2 89.7cm P3 46.9cm P4 30.5cm P5 16.5cm	伊 火床長軸N-22°-W 長さ60cm幅34cm深さ10.1cm	東20.3cm 西29.3cm 南36.7cm 北20.3cm	-		
21	18	縄文?	土坑	長径1.78m 短径1.26m 深さ44.5cm	N-64°-E	-	-	-	-	深さは20号床面より	
22	20	弥生後期	住居跡	長径4.16m 残存短径1.94m	N-13°-W	P1 25.5cm	炉 火床長軸N-15°-W 長さ52cm幅36cm深さ5.3cm	東35.8cm 南45.5cm 北28.1cm	-	床面に雑土灰化物多量に散る。	
23	28	弥生後期	住居跡	残存長径3.50m 残存短径0.54m	-	-	-	南60.0cm	-	床面に雑土多量に散る。	
24	10	古墳前期	住居跡	残存長径4.30m 残存短径3.38m	N-28°-W	P1 53.0cm P2 71.3cm P3 6.2cm	-	南29.3cm	深さ1~3cm	南西コーナーに2次堆積による貝ブロック検出。	
25	13	平安	溝	残存長3.00m 残存幅0.84m 深さ12.8~21.5cm	-	-	-	-	-		
26	15 26	弥生後期	住居跡	推定長径6.18m 推定短径5.14m	N-15°-W	P1 63.4cm P2 39.2cm P3 28.7cm P4 61.8cm P5 21.3cm	炉 火床長軸N-13°-W 長さ70cm幅30cm深さ16.7cm	西8.3cm 南22.9cm	南側深さ2.7~3.5cm	P2~P4の東側に段差あり。胴体者はこれを車轍と捉えたが、遺構プランが至ること、26号遺構として調査された土坑が、位置的に本遺構の貯蔵穴と捉えられられること、及び主柱穴の位置から、遺構プランを復元した。	P1~P4は主柱穴、P2~P4の東側の調査時遺構番号32号は、本遺構と時期を同じくする土師器を出土することから、本遺構の貯蔵穴とした。
27	12(B)	平安	住居跡	長径3.78m 残存短径1.36m	N-2°-W	P1 58.9cm P2 15.8cm P3 21.2cm	不明	南10.0cm 北29.0cm	-	調査時遺構番号12。整理段階で、12A号と切り離し12B号とし、新番号を付けて報告する。	
28	12(A)	平安	住居跡	長径3.80m 残存短径1.68m	N-4°-W	P1 30.0cm P2 16.1cm P3 13.8cm	カマド北壁。未調査	南15.9cm 北21.1cm	深さ3.1~10.2cm	整理段階で、東側周溝及び周溝延長上の段差を壁と捉えたプランで12A号とする。	
29	19 32	平安	住居跡	推定長径3.12m 推定短径3.10m 深さ29.6cm	-	P1 27.8cm	カマド東壁。未調査	-	-	接合関係を有する土師器罐型土器片が、遺構プランを方形と想定した遺構外の1か所に集中して検出されることから、同地点を本遺構カマド煙道部と想定。	調査時遺構番号32号は、本遺構と時期を同じくする土師器を出土することから、本遺構の貯蔵穴とした。
30	14 27	平安	住居跡	長径3.90m 残存短径2.88m	N-2°-W	P1 11.9cm	カマド北壁。未調査	東24.1cm 南5.9cm 北21.2cm	南側深さ4.5~12.2cm		

新遺 標No.	旧遺 標No.	時期	性格	規模	主 軸	ピット (深さ)	火床施設	壁 高	周溝・溝	備 考	特記事項
31	33	平安	住居跡	残存長さ2.81m 残存短径1.06m	-	-	カマド北壁。未調査	西18.4cm 北21.9cm	深さ3.7~8.6cm		
32	34	弥生後期	住居跡	残存長さ2.90m 残存短径1.48m	-	-	-	東13.8cm	-		
33	35	縄文?	土坑	長さ2.10m 短径1.72m 深さ71.5cm	N-39°-W	-	-	東69.8cm 西71.0cm 南72.6cm 北70.1cm	-		
34	22	弥生後期	住居跡	残存長さ4.50m 残存短径0.90m	-	-	-	東22.8cm	-		
35	23	不明	土坑	長さ1.44m 短径1.02m 深さ67.3cm	N-47°-E	-	-	東61.8cm 西64.1cm 南58.7cm 北65.7cm	-		
36	24	不明	土坑	長さ2.58m 短径2.04m 深さ83.2cm	N-40°-E	-	-	東70.2cm 西85.7cm 南83.2cm 北71.7cm	-		
37	16	中世	溝	残存長10.50m以上 残存幅1.1~1.3m 深さ28.8~32.8cm	-	-	-	-	-	覆土上に宝永火山灰を含む。	
38	-	平安以降	目 ブロック	長さ0.84m 短径0.59m	-	-	-	-	-		

## II 遺構と遺物

### 1号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号2号住居跡。遺構南側の大半は、平成18年度の確認調査トレンチ及び攪乱によって大幅に削平されており、遺構の遺存状態は不良である。粘土の分布状態から、カマドは東壁中央やや南寄りに構築されたと推定され、遺構平面プランは南北方向にやや長い長方形の竪穴住居跡と想定される。残存長径2.92m、残存短径1.86mを測るが、大幅な削平により主軸方位は不明である。残存する壁高は東側が29.4cm、西側で27.6cm、北側で26.5cmを測るが、周溝、ピットとも検出されなかった。

床面の一部には硬化範囲が認められるが、カマドについては調査図面がないため、詳細不明である。

#### 遺物

本遺構からは223点2,001.9gの土器片と2点82.1gの礫、3点39.2gの鉄滓、1点1,048.0gの瓦転用支脚が検出された。土器片等の内訳は199点1,752.8gの土師器、7点129.1gの須恵器、14点84.0gの弥生土器、2点27.0gの縄文土器であり、これらの遺物のうち11点を図示した。

一括で取り上げられた8・9を除いた遺物は、いずれもカマド付近と想定される床面などから検出されており、本遺構に直接伴う遺物と判断される。

### 2号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号8号住居跡。1号及び5号竪穴住居跡と重複して存在する推定プラン方形の竪穴住居跡である。遺構の一部は調査区域外に存在するものの、推定長径4.16m、残存短径3.40mを測り、主軸方位はN-28°-Wを示す。粘土集中範囲から、カマドは北壁のほぼ中央に構築されたと判断されるが、調査図面がないため詳細不明である。

残存する壁高は西側で14.6cm、南側で16.7cm、北側で19.6cmを測り、周溝は西側に検出され、深さは6~12cmを測る。ピットは3か所に検出され、位置的にいずれも支柱穴であり、掘り込みも深くしっかりしている。深さはP1が48.1cm、P2は46.0cm、P3が61.0cmを測る。

#### 遺物

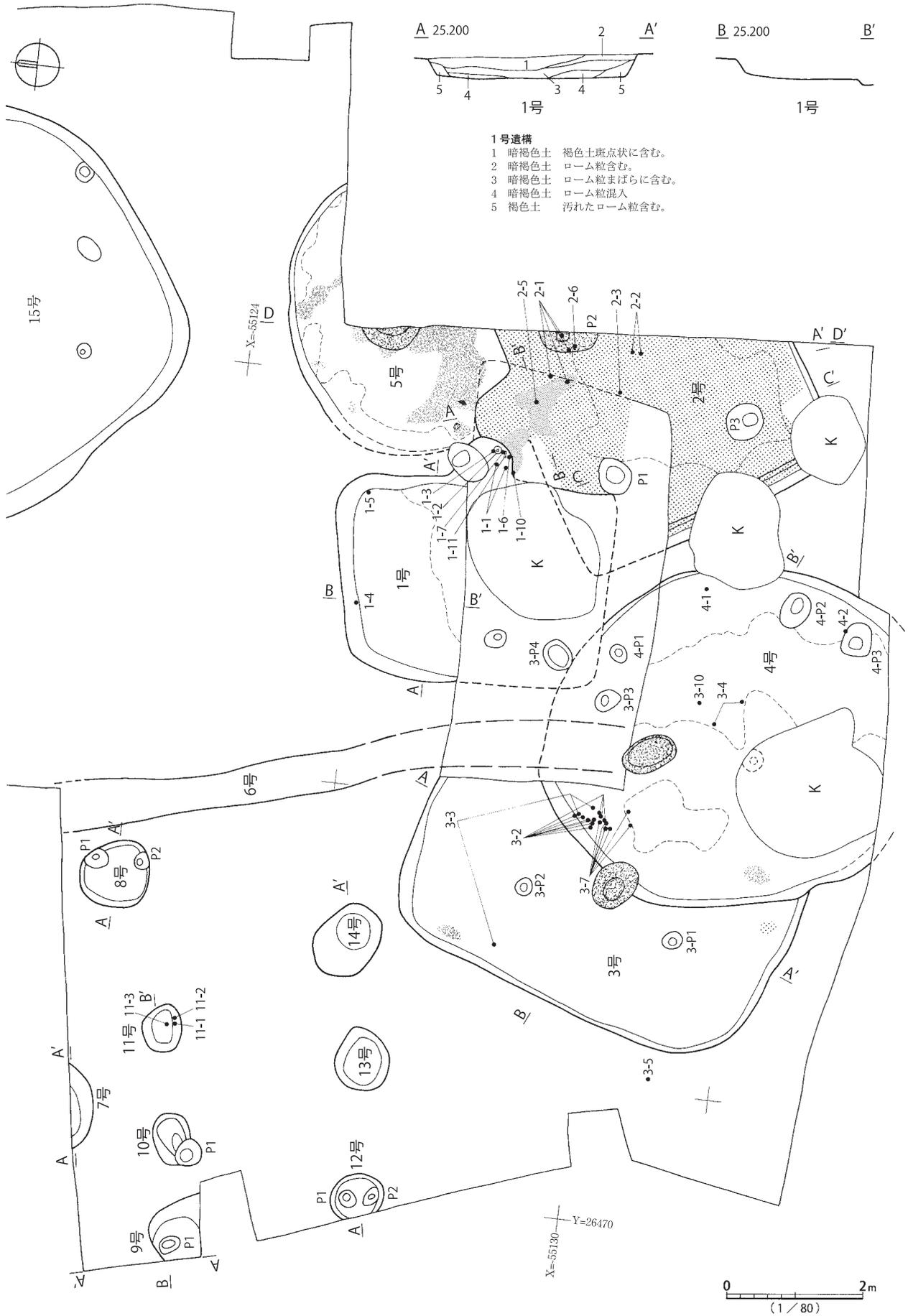
本遺構からは273点2,632.0gの土器片と2点19.9gの礫、4点1,150.0gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、240点2,489.1gの土師器、1点6.6gの須恵器、32点136.3gの弥生土器、2点19.9gの自然石、1点931.0gの支脚、1点193.1gの須恵器転用砥石、2点25.9gの瓦片であり、これらの出土遺物のうち6点を図示した。

1・2はいずれも底部付近を欠損する土師器甕型土器であり、いずれも本遺構に直接伴うものと判断される。6は須恵器片転用砥石であり、内面がよく摩り込まれている。

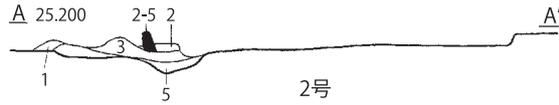
### 3号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号1号住居跡。1号及び4号竪穴住居跡と重複して存在する方形の竪穴住居跡である。遺構西側の一部は、平成18年度の確認調査トレンチで削平されているが、長径5.70m、残存短径2.84mを測り、主軸方位はN-17°-Eを示す。炉はP1・P2間の中央東側に検出され、長さ36cm、幅26cm、深さ4.5cmを測り、主軸方位はN-51°-Wを示す。

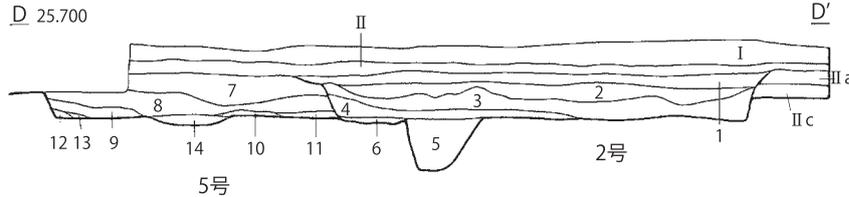
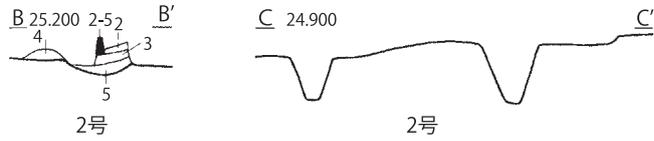
残存する壁高は東側で16.8cm、西側で25.2cm、南側で17.4cmを測り、周溝は確認されなかった。ピッ



第3図 1~14号遺構実測図

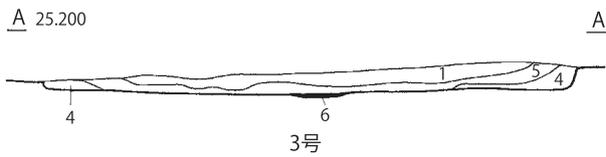


- 2号カマド**
- 1 暗褐色土 焼土粒散る。
  - 2 褐色土 焼土粒、粘土粒含む。
  - 3 暗褐色土 黒色土中に焼土粒、白色粘土混入
  - 4 黄灰色土 黄灰色粘土主体
  - 5 暗灰色 白色粘土、黄灰色粘土混入

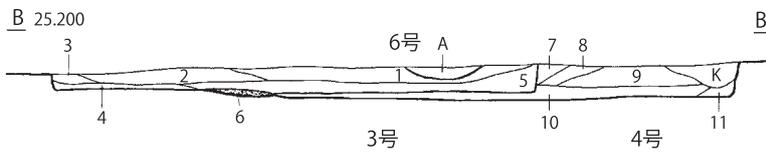


- 5号遺構**
- 7 暗褐色土 ローム粒混入
  - 8 暗褐色土 ローム粒含む。
  - 9 褐色土 ローム粒、ロームB多量に含む。
  - 10 暗褐色土 焼土多量に含む。
  - 11 暗褐色土 焼土やや多く含む。
  - 12 暗褐色土 焼土層
  - 13 褐色土 ローム粒多量に含む。
  - 14 褐色土 焼土層

- 2号遺構**
- 1 褐色土 混褐色焼土層
  - 2 褐色土 橙色焼土粒、黄白色粘土粒含む。
  - 3 暗褐色土 橙色焼土粒、黄白色粘土粒やや多く含む。
  - 4 暗褐色土 橙色焼土粒、黄白色粘土粒多量に含む。
  - 5 黒褐色土 橙色焼土粒、黄白色粘土粒若干含む。
  - 6 暗褐色土 黄白色粘土層

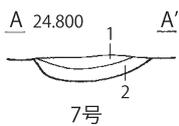


- 3号遺構**
- 1 黒褐色土 焼土粒、炭化粒含む。
  - 2 暗褐色土 焼土粒、炭化粒多量に含む。
  - 3 暗褐色土 ローム粒混入
  - 4 褐色土 ローム粒、ロームB多量に含む。
  - 5 暗褐色土 焼土粒、ローム粒含む。
  - 6 暗赤褐色土 焼土粒多量に含む。

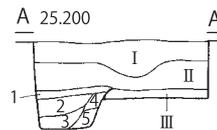


- 4号遺構**
- 7 暗褐色土 焼土粒少量含む。
  - 8 暗褐色土 ローム粒、焼土粒含む。
  - 9 暗褐色土 ローム粒、ローム小B含む。
  - 10 暗褐色土 ローム粒、ロームB含む。
  - 11 褐色土 ローム粒、ロームBやや多く含む。

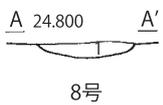
- 6号遺構**
- A 暗灰色土 宝永火山灰を多量に含む。



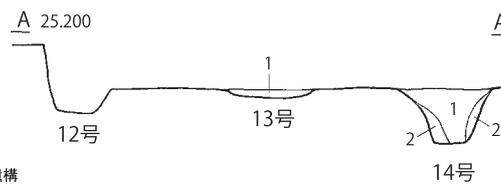
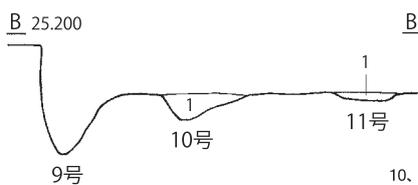
- 7号遺構**
- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
  - 2 暗褐色土 ローム粒やや多く含む。



- 9号遺構**
- 1 暗褐色土 ローム粒混入
  - 2 暗褐色土 ローム粒、ロームB含む。
  - 3 暗褐色土 ローム粒含む。
  - 4 褐色土 ローム粒、ロームBやや多く含む。
  - 5 褐色土 ロームBやや多く含む。

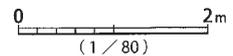


- 8号遺構**
- 1 暗褐色土 ローム粒含む。

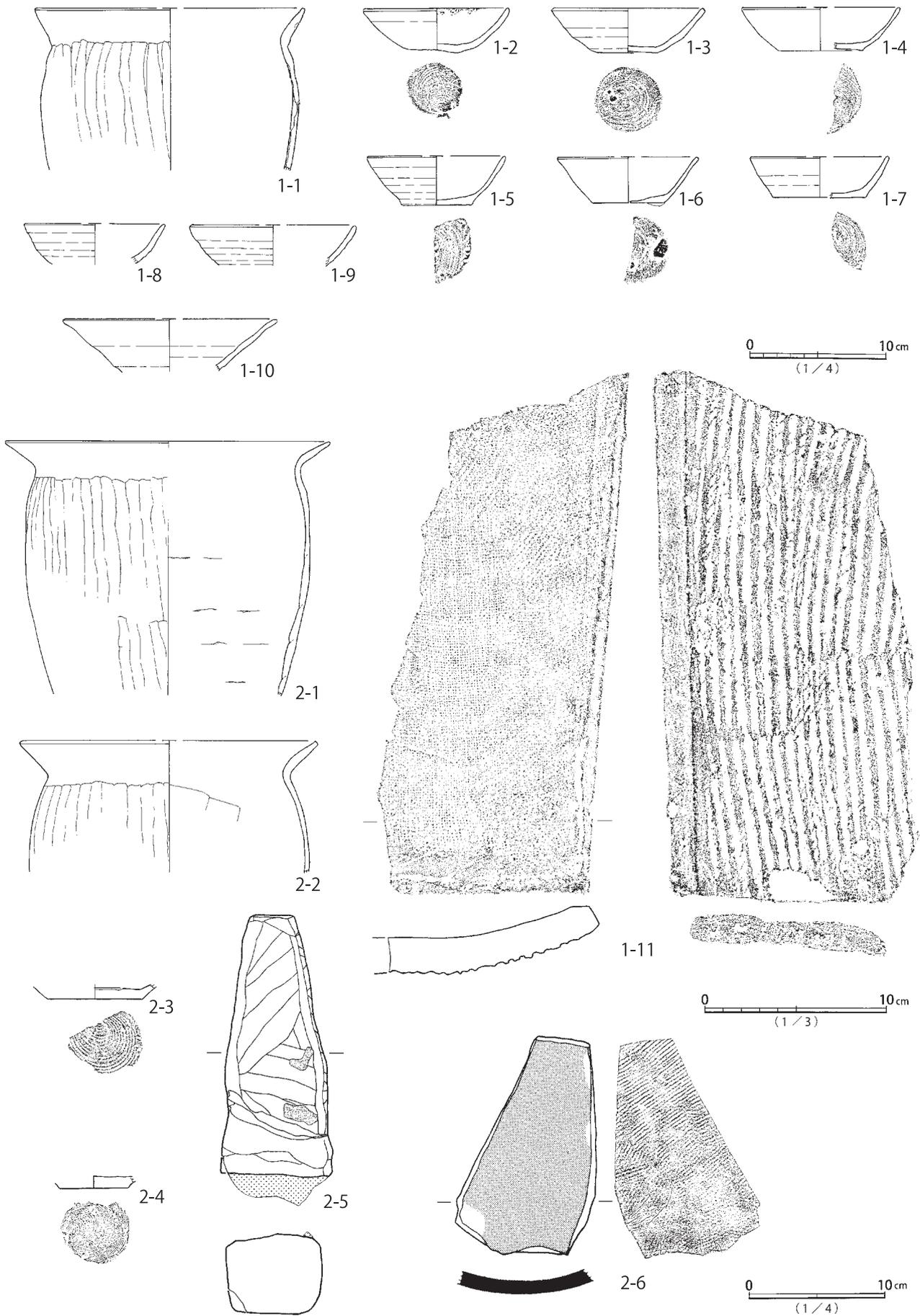


- 10、11、13、14号遺構**
- 1 暗褐色土 ローム粒混入
  - 2 暗褐色土 ローム粒ロームB混入

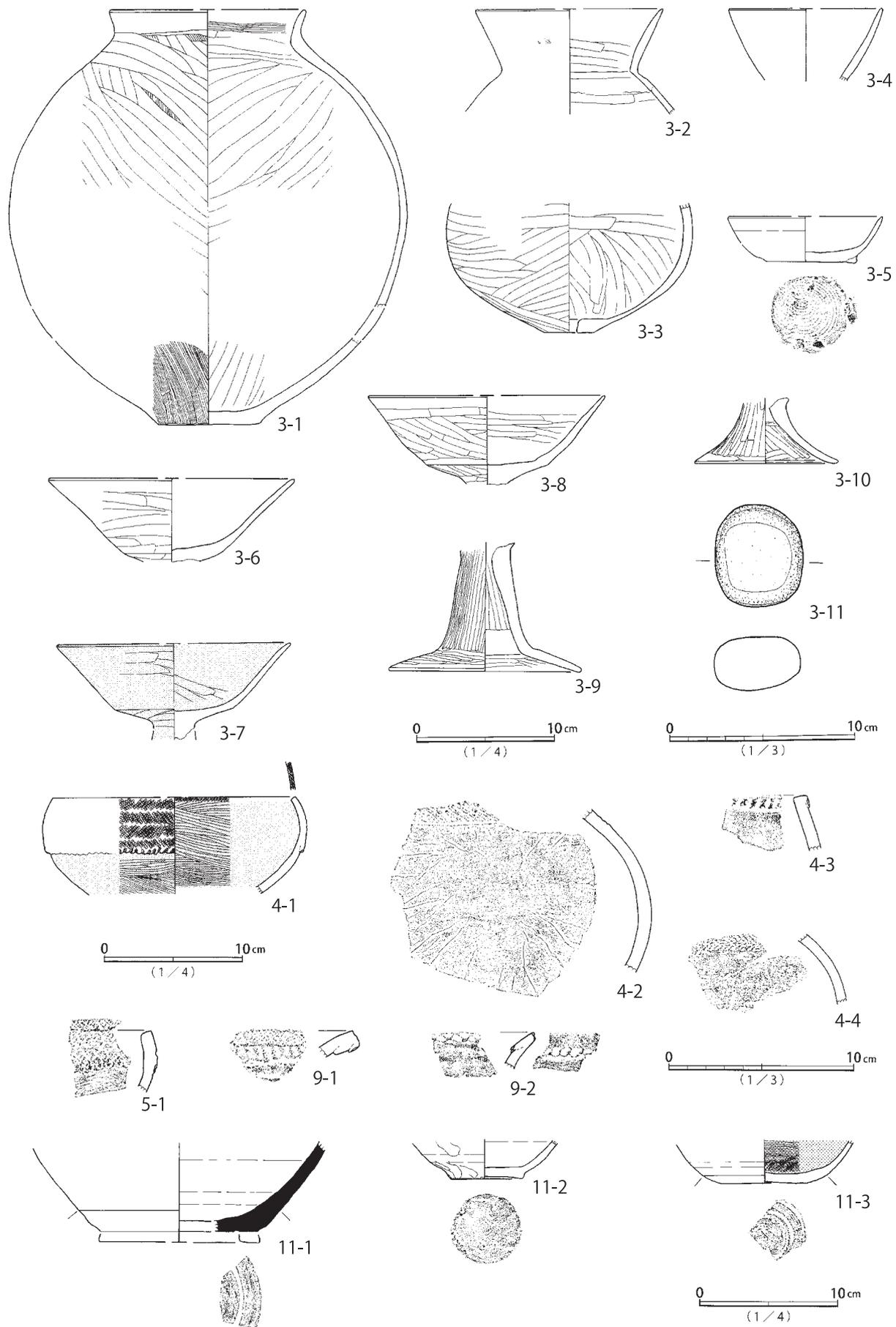
※ロームBは、ロームブロックの略



第4図 2～14号遺構実測図



第5图 1·2号遺構出土遺物実測図



第6图 3~5·9·11号出土遗物实测图

トは4か所に検出され、P1～P3は位置的に支柱穴と想定されるが、掘り込みは一定ではない。深さはP1が27.2cm、P2は14.7cm、P3が68.8cm、P4が12.3cmを測る。

#### 遺物

本遺構からは490点6,533.8gの土器片と17点1,523.2gの礫・石器が検出された。土器片等の内訳は、412点5,944.5gの土師器、1点13.8gの須恵器、75点515.0gの弥生土器、2点60.5gの縄文土器、15点1,006.0gの自然石、1点120.0gの磨石、1点397.2gの磨石片であり、これらの出土遺物のうち11点を図示した。

全体的に攪乱内や床面から高く浮いた位置からの出土遺物が多いが、3・7は床面に近い位置からの出土であり、本遺構に直接伴うものと考えられる。

#### 4号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号6号住居跡。3号遺構に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。遺構北側の一部は、平成18年度の確認調査トレンチで削平されているが、残存長径5.42m、短径4.96mを測り、主軸方位はN-30°-Wを示す。炉は遺構中央より北側に検出され、長さ68cm、幅40cm、深さ3.5cmを測り、主軸方位はN-27°-Wを示す。

残存する壁高は東側で31.9cm、西側で4.8cm、北側で4.7cmを測り、周溝は確認されなかった。ピットは3か所に検出され、掘り込みは一定ではない。深さはP1が2.5cm、P2は16.5cm、P3が20.3cmを測る。

#### 遺物

本遺構からは41点295.3gの土器片と2点17.5gの自然石が検出されている。土器片等の内訳は、32点94.8gの土師器、9点200.5gの弥生土器であり、これらの遺物のうち4点を図示した。

本遺構出土遺物は、いずれも床面からかなり離れた位置から検出されたものや、覆土一括で取り上げられたものである。

#### 5号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号21号住居跡。2号遺構に削平されて存在する楕円形の竪穴住居跡である。遺構南側の一部は、平成18年度の確認調査トレンチで削平されているが、残存長径3.0mを測る。炉は遺構中央より北側に検出され、長さ84cm、残存幅32cm、深さ22.3cmを測り、主軸方位はN-2°-Wを示す。

残存する壁高は、北側で12.1cmを測り、周溝及びピットは検出されなかった。

本遺構からは極めて多量の焼土が検出されており、火災住居跡である可能性が高い。

#### 遺物

本遺構からは15点135.4gの土器片が検出されている。土器片等の内訳は、11点42.0gの土師器、1点9.7gの須恵器、3点83.7gの弥生土器であり、これらの遺物のうち、1点を図示した。

本遺構出土遺物は、いずれも床面からかなり離れた位置から検出されたものや、覆土一括で取り上げられたものである。

#### 6号遺構（溝）

平成27年度調査時遺構番号11号溝。3号遺構の北側に検出され、3号遺構の覆土上面の一部を削平して存在する溝である。残存長9.30m、幅0.5～0.74m、深さ10cmを測り、覆土に宝永火山灰を多量に含んでいる。

## 遺物

本遺構からは48点118.4 gの土師器細片と1点6.4 gの自然石が検出されているが、ほとんどが細片であり、図示に至る遺物はない。

### 7号遺構（土坑）

平成27年度調査時遺構番号17号遺構のピット8。調査時当初は掘立柱建物跡として調査されたが、柱痕が検出されず、遺構間隔も不均等なことから、個々の土坑として取り扱った。6号遺構の西側に検出され、遺構の大半は調査区域外に存在している。残存長径1.26m、残存短径0.34m、深さは32.8 cmを測る。

## 遺物

本遺構からは6点40.4 gの弥生土器が検出されているが、いずれも細片のため、図示に至る遺物はない。

### 8号遺構（土坑）

平成27年度調査時遺構番号17号遺構のピット7。調査時当初は掘立柱建物跡として調査されたが、柱痕が検出されず、遺構間隔も不均等なことから、個々の土坑として取り扱った。6号遺構の西側に検出され、長径1.04m、残存短径1.00m、深さは18.4cmを測り、主軸方位はN-11°-Wを示す。ピットは2か所に検出され、深さはP1が10.8cm、P2は13.5cmを測る。

## 遺物

本遺構からは6点90.8 gの土師器片が検出されているが、細片のため、図示に至る遺物はない。

### 9号遺構（土坑）

平成27年度調査時遺構番号17号遺構のピット6。調査時当初は掘立柱建物跡として調査されたが、柱痕が検出されず、遺構間隔も不均等なことから、個々の土坑として取り扱った。6号遺構の西側に検出され、遺構の一部は調査区域外に存在している。残存長径0.84m、残存短径0.70m、深さは40.0 cmを測る。ピットは1か所に検出され、深さは73.4cmを測る。

## 遺物

本遺構からは14点53.3 gの土器片が検出された。土器片の内訳は、2点5.0 gの土師器、12点48.3 gの弥生土器であり、これらの遺物のうち2点を図示した。1は弥生壺、2は弥生甕の口縁である。

### 10号遺構（土坑）

平成27年度調査時遺構番号17号遺構のピット5。調査時当初は掘立柱建物跡として調査されたが、柱痕が検出されず、遺構間隔も不均等なことから、個々の土坑として取り扱った。6号遺構の西側に検出され、長径0.80m、短径0.58m、深さは16.5cmを測り、主軸方位はN-68°-Eを示す。ピットは1か所に検出され、深さは28.4cmを測る。

## 遺物

本遺構からは遺物が全く検出されなかった。

### 11号遺構（土坑）

平成27年度調査時遺構番号17号遺構のピット4。調査時当初は掘立柱建物跡として調査されたが、柱痕が検出されず、遺構間隔も不均等なことから、個々の土坑として取り扱った。6号遺構の西側に検出され、長径0.72m、短径0.60m、深さは8.6cmを測り、主軸方位はN-90°-Wを示す。

## 遺物

本遺構からは8点355.6gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、5点111.6gの土師器細片、3点244.0gの須恵器片が検出され、これらの遺物のうち3点を図示した。

### 12号遺構（土坑）

平成27年度調査時遺構番号17号遺構のピット1。調査時当初は掘立柱建物跡として調査されたが、柱痕が検出されず、遺構間隔も不均等なことから、個々の土坑として取り扱った。6号遺構の西側に検出され、長径0.82m、短径0.62m、深さは25.0cmを測り、主軸方位はN-32°-Wを示す。ピットは2か所に検出され、深さはP1が32.6cm、P2が12.0cmを測る。

## 遺物

本遺構からは10点30.7gの土師器細片と、1点14.3gの緑釉陶器片が検出されている。全て無文の遺物であり、図示に至る遺物はない。

### 13号遺構（土坑）

平成27年度調査時遺構番号17号遺構のピット2。調査時当初は掘立柱建物跡として調査されたが、柱痕が検出されず、遺構間隔も不均等なことから、個々の土坑として取り扱った。6号遺構の西側に検出され、長径0.96m、短径0.80m、深さは8.9cmを測り、主軸方位はN-70°-Eを示す。

## 遺物

本遺構からは6点5.0gの土師器細片と1点75.4gの須恵器片が検出されたが、全て無文の遺物であり、図示に至る遺物はない。

### 14号遺構（土坑）

平成27年度調査時遺構番号17号遺構のピット3。調査時当初は掘立柱建物跡として調査されたが、柱痕が検出されず、遺構間隔も不均等なことから、個々の土坑として取り扱った。6号遺構の西側に検出され、長径1.16m、短径0.82m、深さは27.7cmを測り、主軸方位はN-63°-Wを示す。

## 遺物

本遺構からは1点9.5gの須恵器片が検出されたが、無文で図示に至らない。

### 15号遺構（竪穴住居跡）

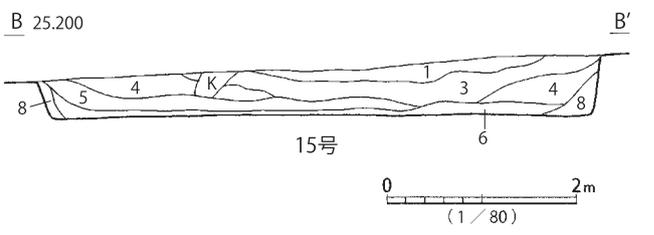
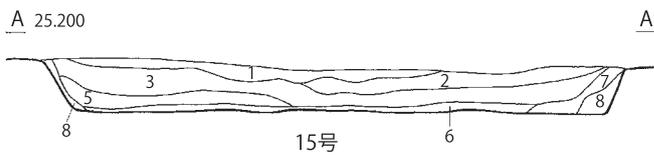
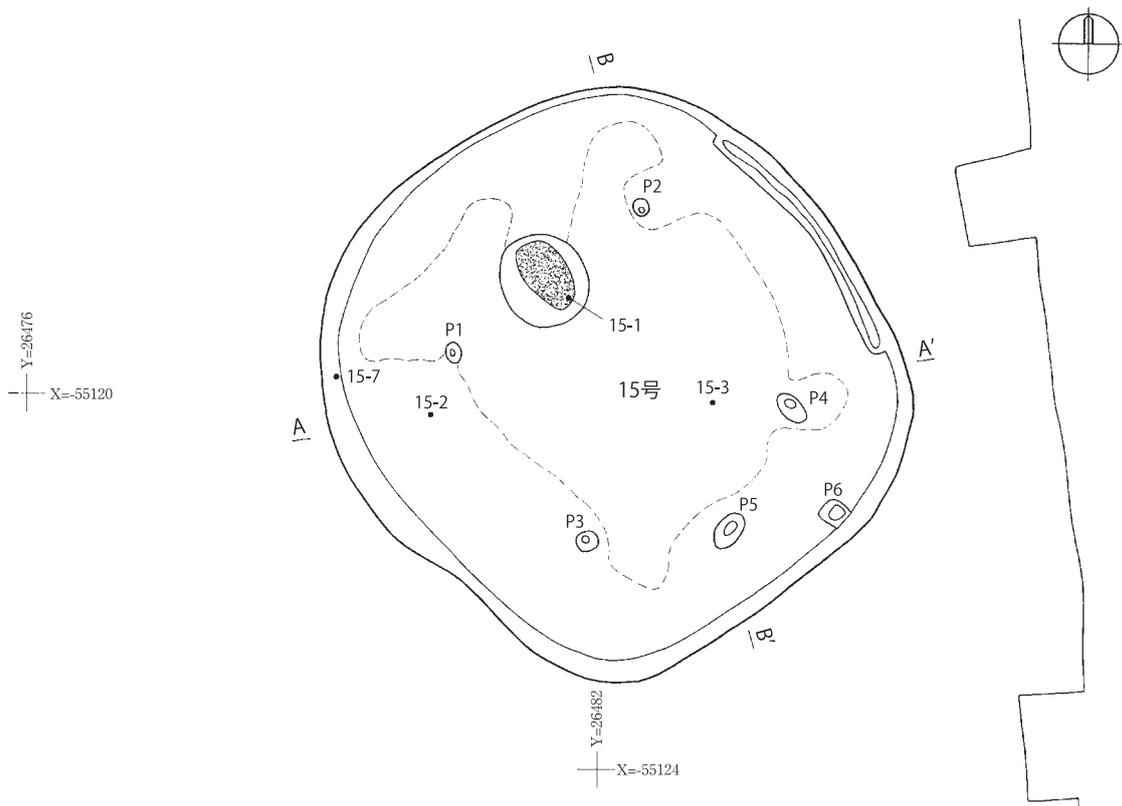
平成27年度調査時遺構番号4号住居跡。南側調査区中央やや南寄りに単独で存在する、楕円形の竪穴住居跡である。長径5.88m、短径5.64mを測り、主軸方位はN-38°-Wを示す。炉はP1・P2間の中央に検出され、長さ78cm、幅46cm、深さ7.4cmを測り、主軸方位はN-47°-Wを示す。

残存する壁高は東側で59.5cm、西側で54.4cm、南側で68.2cm、北側38.2cmを測り、掘り込みも深くしっかりしている。周溝は東側壁際に検出され、深さは7cmを測る。ピットは6か所に検出され、P1～P4は位置的に支柱穴と想定され、掘り込みも深くしっかりしている。深さはP1が103.5cm、P2は113.9cm、P3が118.0cm、P4が96.0cm、P5が15.5cm、P6は16.7cmを測る。

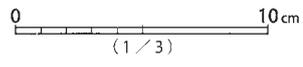
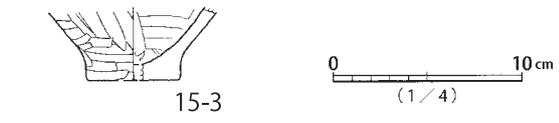
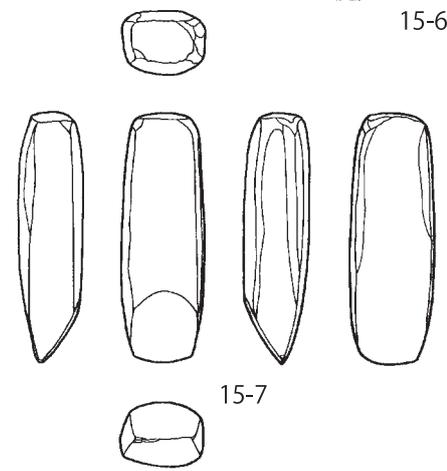
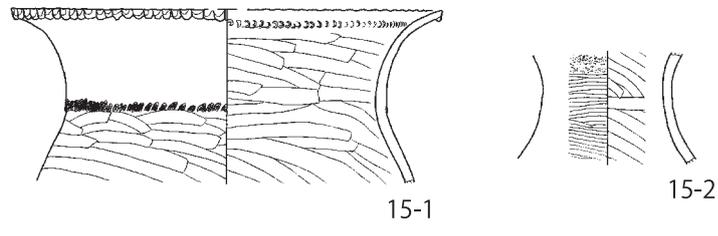
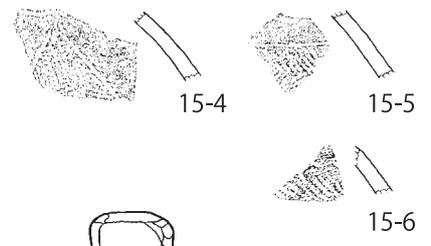
## 遺物

本遺構からは60点674.7gの土器片と4点1,040.3gの礫・石器が検出されている。土器片等の内訳は、9点43.4gの土師器、3点40.6gの須恵器、48点590.7gの弥生土器であり、これらの遺物のうち7点を図示した。

1・2・7は、床直若しくは床直上からの検出で、いずれも本遺構に直接伴う遺物と考えられる。



- 15号遺構**
- 1 暗褐色土 褐色土斑点状に含む。
  - 2 暗褐色土 ローム粒、ローム小B含む。
  - 3 褐色土 ローム粒、ローム小B含む。
  - 4 褐色土 ロームB含む。
  - 5 褐色土 ローム粒含む。
  - 6 暗褐色土 ローム粒、ロームB含む。やや締まる。
  - 7 褐色土 汚れたローム粒、ロームB含む。
  - 8 黄褐色土 ローム粒、ロームB多量に含む。



第7図 15号遺構実測図・出土遺物実測図

### 16号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号7号住居跡。南側調査区中央に所在し、17号遺構を削平して存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。遺構の一部は調査区域外に存在するが、残存長径5.40m、短径5.52mを測り、主軸方位はN-47°-Wを示す。炉は遺構中央やや北側に検出され、長さ70cm、幅40cm、深さ13.2cmを測り、主軸方位はN-61°-Wを示す。

残存する壁高は東側で61.0cm、西側で59.0cm、南側で60.3cm、北側で69.8cmを測り、掘り込みも深くしっかりしている。周溝は南側の壁際に検出され、深さは5～12cmを測る。ピットは7か所に検出され、P1～P3は位置的に支柱穴、P4・P5は入口施設に伴うピットと想定され、掘り込みも深い。深さはP1が56.2cm、P2は57.8cm、P3が51.2cm、P4が56.8cm、P5が35.7cm、P6は47.7cm、P7は22.3cmを測る。壁際等から焼土が多量に検出されており、火災住居跡である可能性が高い。

#### 遺物

本遺構からは916点5,413.3gの土器片と2点8.0gの礫、3点427.8gの土製品等が検出されている。土器片等の内訳は、601点3,879.4gの土師器、1点31.0gの須恵器、312点1,497.9gの弥生土器、1点4.0gの縄文土器、1点1.0gの近世陶器、1点3.0gのスラグ、1点98.0g支脚片、2点329.8g瓦であり、これらの遺物のうち8点を図示した。

1・6・7は、床直若しくは床直上からの検出で、いずれも本遺構に直接伴う遺物と考えられる。

### 17号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号29号住居跡。南側調査区中央に位置し、16号遺構に削平されて存在する推定プラン楕円形の竪穴住居跡である。遺構の大半は既に消滅しているが、残存長径3.26m、残存短径0.90mを測る。炉やピットは検出されなかった。残存する壁高は南側で29.5cmを測る。

#### 遺物

本遺構からは29点108.3gの土器片と2点46.4gの礫が検出されている。土器片等の内訳は、15点41.2gの土師器、1点0.9gの須恵器、13点66.2gの弥生土器であるが、全て細片のため、図示に至る遺物がない。

### 18号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号5号住居跡。南側調査区のほぼ中央に位置し、単独で存在する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径4.26m、短径4.20mを測り、主軸方位はN-30°-Eを示す。炉は遺構中央やや北側に検出され、長さ52cm、幅32cm、深さ5.5cmを測り、主軸方位はN-19°-Eを示す。

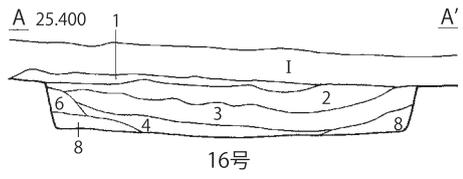
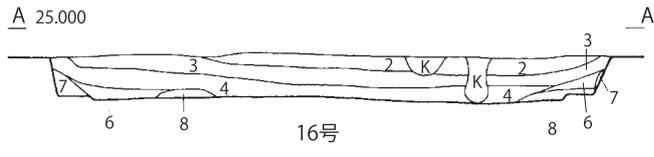
残存する壁高は東側で29.0cm、西側で25.0cm、南側で26.2cm、北側25.3cmを測り、周溝は未検出である。ピットは1か所に検出され、深さは14.4cmを測る。

#### 遺物

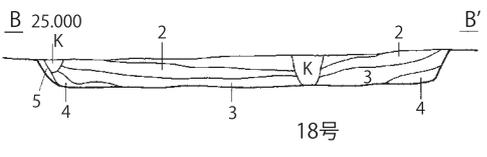
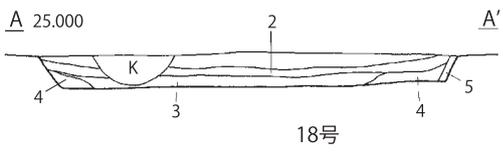
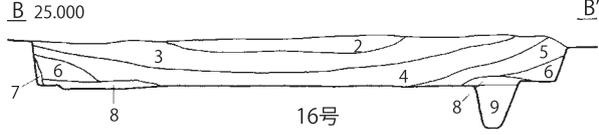
本遺構からは287点2,874.9gの土器片と1点211.0gの礫が検出されている。土器片等の内訳は、82点815.2gの土師器、202点2,026.3gの弥生土器、1点12.6gの縄文土器、2点20.8gの近世陶器であり、これらの遺物のうち8点を図示した。

1は、東壁際の床直若しくは床直上から検出された弥生壺型土器であるが、時期的に本遺構の平面形態にそぐわない。

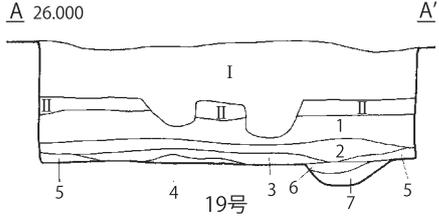




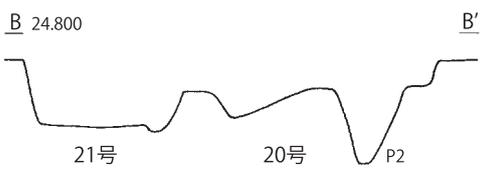
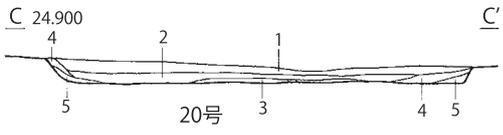
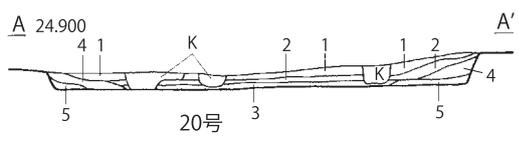
- 16号遺構**
- 1 暗褐色土 スコリア粒混入
  - 2 黒色土 スコリア粒混入
  - 3 黒色土 橙色スコリア粒混入
  - 4 暗褐色土 焼土粒、ローム粒混入
  - 5 黒色土 ローム粒含む
  - 6 黒褐色土 ローム粒まばらに含む
  - 7 褐色土 ローム粒、ロームB多量に含む
  - 8 暗褐色土 焼土多量に含む
  - 9 暗褐色土 ローム粒、ロームB含む



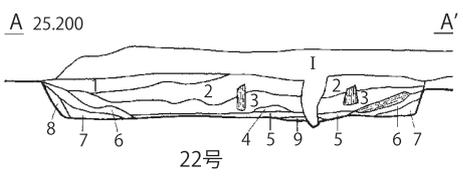
- 18号遺構**
- 1 暗褐色土 ローム粒含む
  - 2 暗褐色土 ローム粒、ロームB含む
  - 3 暗褐色土 ローム粒、ロームBやや多く含む
  - 4 暗褐色土 ローム粒、ロームB多量に含む
  - 5 暗褐色土 汚れたローム粒、ロームB多量に含む



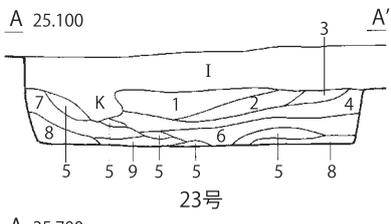
- 19号遺構**
- II 暗褐色土 中世遺物包含層
  - I 褐色土 よく締まる
  - 2 黒褐色土 ローム粒含む
  - 3 黒褐色土 焼土粒含む
  - 4 暗褐色土 ローム粒、焼土粒含む
  - 5 褐色土 ローム粒、ロームB含む
  - 6 黒褐色土 ローム粒、ロームB含む
  - 7 黒褐色土 ローム粒含む



- 20号遺構**
- 1 暗褐色土 ローム粒混入
  - 2 暗褐色土 ローム粒、ロームBやや多く含む
  - 3 暗褐色土 ローム粒、焼土粒含む
  - 4 褐色土 焼土粒、ローム粒含む
  - 5 褐色土 ローム粒、ロームB多量に含む

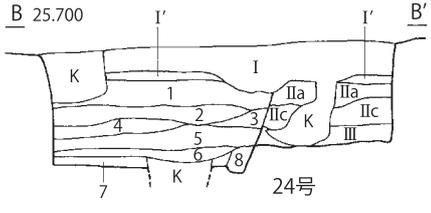
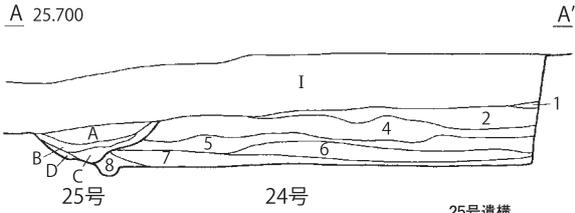


- 22号遺構**
- 1 暗褐色土 ローム粒含む
  - 2 暗褐色土 木炭、焼土粒、ローム粒含む
  - 3 暗褐色土 混入ローム粒、焼土粒、炭化物含む
  - 4 橙色土 焼土層
  - 5 暗褐色土 木炭、焼土粒含む
  - 6 暗褐色土 焼土粒多量に含む
  - 7 暗褐色土 焼土層
  - 8 褐色土 汚れたローム粒、ロームB多量に含む
  - 9 橙色土 焼土層

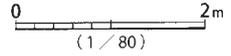


- 23号遺構**
- 1 褐色土 ローム粒斑点状に含む
  - 2 褐色土 ローム粒、ロームB含む
  - 3 暗褐色土 ローム粒含む
  - 4 暗褐色土 ローム粒、焼土粒含む
  - 5 橙色土 焼土粒多量に含む
  - 6 暗褐色土 ローム粒、ロームBやや多く含む
  - 7 黒褐色土 ローム粒含む
  - 8 褐色土 ローム粒、ロームB多量に含む
  - 9 褐色土 ローム粒多量に含む

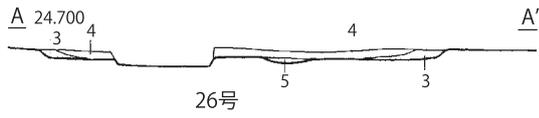
- 24号遺構**
- 1 暗褐色土
  - 2 暗褐色土 ローム粒混入
  - 3 暗褐色土 ローム粒含む
  - 4 褐色土 ローム粒やや多く含む
  - 5 暗褐色土 ローム粒混入
  - 6 黒色土 ローム粒若干含む
  - 7 暗褐色土 ローム粒含む
  - 8 暗褐色土 ローム粒、ロームB含む



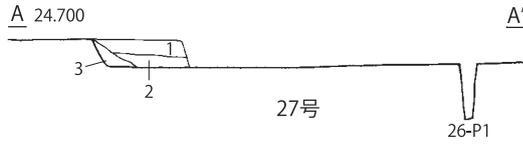
- 25号遺構**
- A 黒褐色土 スコリア粒含む
  - B 暗褐色土 ローム粒若干含む
  - C 暗褐色土 ローム粒含む
  - D 暗褐色土 ローム粒、ロームB含む



第9図 16・18～25号遺構実測図  
- 19 -

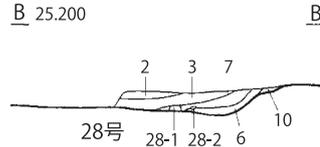
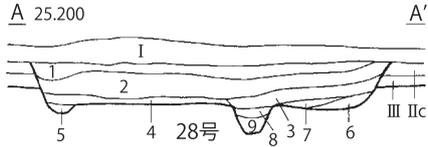


26号遺構  
 3 暗褐色土 ローム粒、ロームB含む。  
 4 暗褐色土 焼土粒含む。  
 5 赤褐色土 焼土、炉

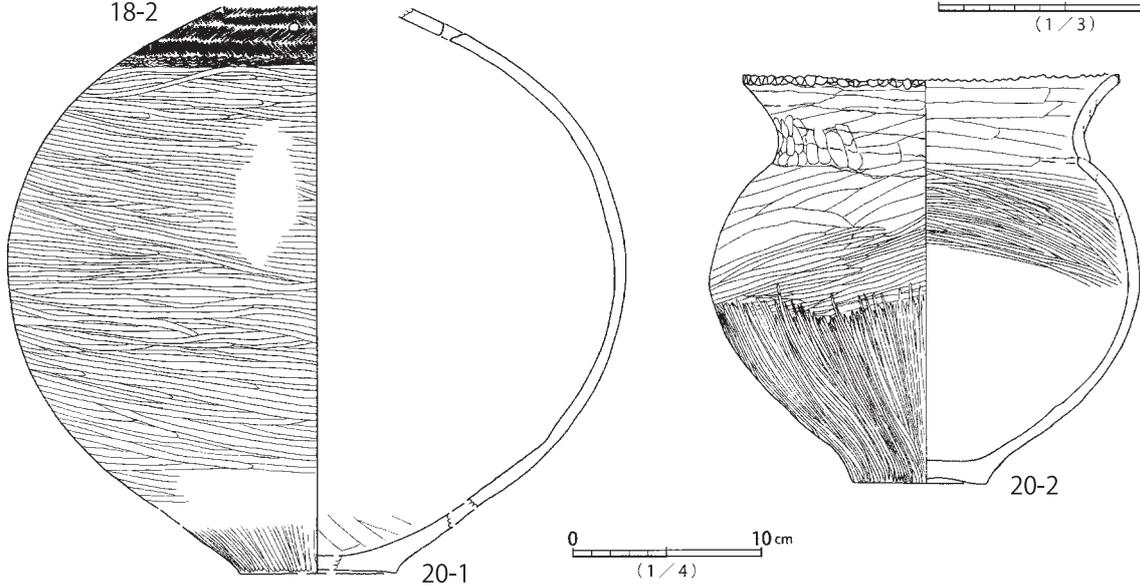
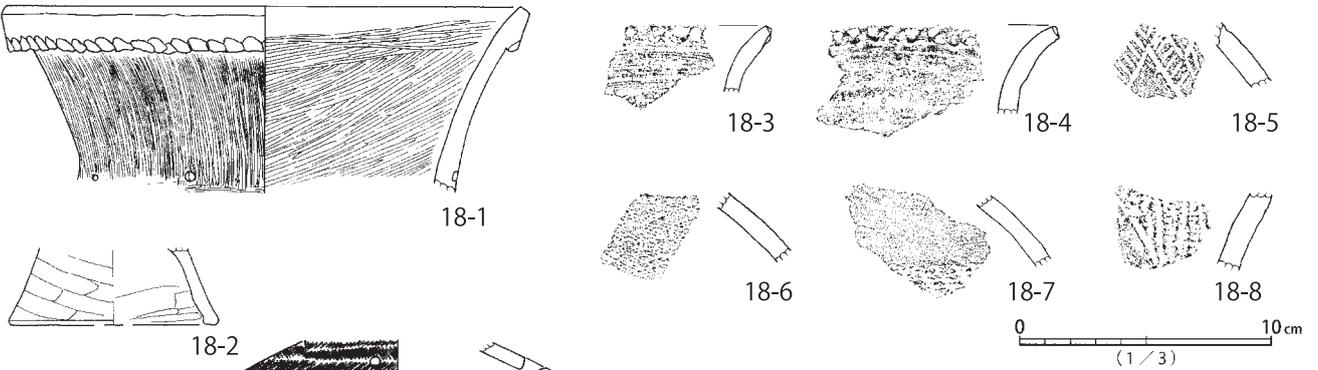
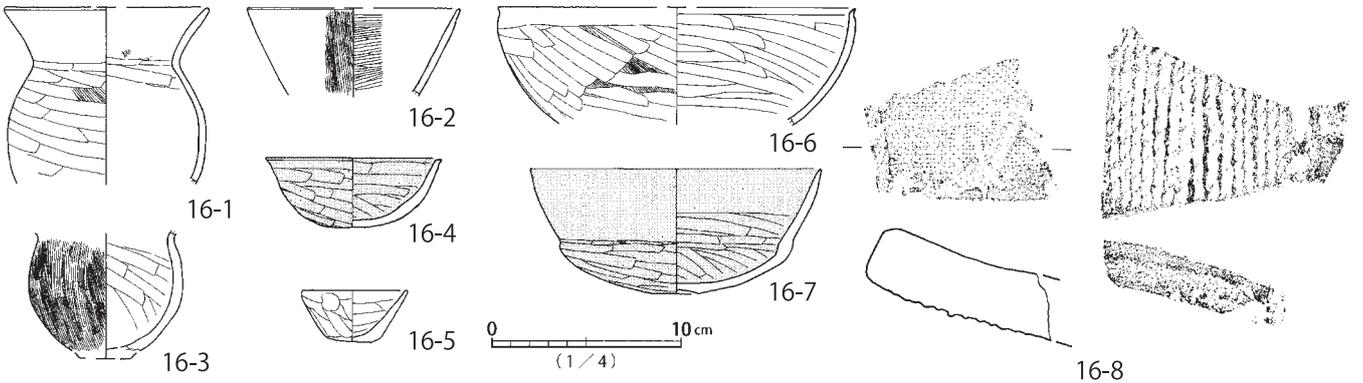
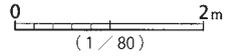


第14図に別図あり

27号遺構  
 1 暗褐色土 ローム粒含む。  
 2 暗褐色土 ローム粒混入  
 3 橙色土 焼土粒含む。



28号遺構  
 1 暗褐色土 ローム粒含む。  
 2 暗褐色土 ローム粒含む。  
 3 暗褐色土 焼土粒、ローム粒含む。  
 4 暗褐色土 ローム粒含む。  
 5 褐色土 ローム粒やや多く含む。  
 6 暗褐色土 ローム粒含む。  
 7 暗褐色土 ローム粒混入  
 8 暗褐色土 焼土粒含む。  
 9 橙色土 焼土粒やや多く含む。  
 10 暗褐色土 焼土粒含む。



第10図 26~28号遺構実測図、16・18・20号遺構出土遺物実測図

### 19号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号3号住居跡。18号遺構の東側に位置する推定平面プラン楕円形の竪穴住居跡である。遺構のおよそ半分は調査区域外に存在するが、残存長径3.50m、残存短径2.32mを測り、主軸方位はN-32°-Wを示す。炉及び周溝は未検出である。

残存する壁高は西側で18.3cm、北側で18.7cmを測り、ピットは2か所に検出された。P1・P2は位置的に支柱穴と想定され、深さはP1が14.2cm、P2は26.3cmを測る。

#### 遺物

本遺構からは44点218.0gの土器片が検出された。土器片の内訳は、41点192.0gの土師器、3点26.0gの弥生土器であるが、全て細片のため図示に至るものはない。

### 20号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号9号住居跡。19号遺構の北側に位置する隅丸方形の竪穴住居跡である。長径4.52m、短径4.44mを測り、主軸方位はN-30°-Wを示す。炉はP1・P2間の中央やや南寄りに検出され、長さ60cm、幅34cm、深さ10.1cmを測り、主軸方位はN-32°-Wを示す。

残存する壁高は東側で20.3cm、西側で29.3cm、南側で36.7cm、北側で20.3cmを測る。周溝は未検出であり、ピットは5か所に検出された。P1～P4は位置的に支柱穴、P5は入口施設に伴うピットと想定され、掘り込みも深くしっかりしている。深さはP1が47.8cm、P2は89.7cm、P3が46.3cm、P4は30.5cm、P5が16.5cmを測る。

#### 遺物

本遺構からは342点6,084.5gの土器片と、8点1,064.1gの礫・石器、3点11.2gの金属器片、1点6.1gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、235点5,429.7gの土師器、1点6.1gの須恵器、105点642.8gの弥生土器、1点5.9gの縄文土器、7点616.3gの自然石、1点447.8gの敲石、1点6.1gの瓦であり、これらの遺物のうち13点を図示した。

1～5・7は弥生時代終末期から古墳時代早期にかけての遺物であり、いずれも床直若しくは床直上で検出されており、本遺構に直接伴う遺物と考えられる。12は用途不明の鉄器片であり、先端部を1cmほど折り返していることが確認される。

### 21号遺構（土坑）

平成27年度調査時遺構番号18号土坑。20号遺構の西側に、遺構プランがほとんど収まって検出された長方形の土坑である。長径1.78m、短径1.26m、深さ44.5cmを測り、主軸方位はN-64°-Eを示す。残存する壁高は、20号遺構床面から44cm前後を測る。底面からピット等は検出されなかった。

#### 遺物

本遺構からは19点157.9gの土器片が検出された。土器片の内訳は、11点104.2gの土師器、8点53.7gの弥生土器であり、このうち1点の弥生甕頸部を図示した。

### 22号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号20号住居跡。16号遺構の北側に位置し26号遺構と接して存在する楕円形の竪穴住居跡である。長径4.16m、残存短径1.94mを測り、主軸方位はN-13°-Wを示す。炉は中央やや北寄りに全体の2/3程が検出され、長さ52cm、幅36cm、深さ5.3cmを測り、主軸方位はN-15°-Wを示す。残存する壁高は東側で35.8cm、南側で45.5cm、北側で28.1cmを測る。周溝は未検出であり、ピットは

東壁際に1か所検出された。深さは床面より25.5cmを測る。なお、支柱穴は未検出ながら、本来支柱穴が想定される範囲にその位置を破線で示している。また、壁際等から焼土及び炭化物が極めて多量に検出されており、本遺構は火災住居跡である可能性が高い。

#### 遺物

本遺構からは23点351.0gの土器片と、2点780.3gの自然石が検出された。土器片等の内訳は、1点7.7gの土師器、1点17.7gの須恵器、21点325.6gの弥生土器であるが、無文の土器が主体で、図示に至る遺物はなかった。

#### 23号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号28号住居跡。南側調査区の北端に位置し、遺構の大半は調査区域外に所在する竪穴住居跡である。調査範囲内では遺構プランの一端をとらえたにすぎず、残存長径3.50m、残存短径0.54mを測り、主軸方位は不明である。炉、周溝とも未検出である。

残存する壁高は南側で60.0cmを測り、遺構の掘り込みは深い。壁際に沿って極めて多量の焼土が検出されており、本遺構は火災住居跡である可能性が極めて高い。

#### 遺物

本遺構からは29点329.7gの土器片が検出された。土器片の内訳は、17点137.3gの土師器、1点12.2gの須恵器、11点180.2gの弥生土器であり、このうち1点の土師器甕口縁部を図示した。

#### 24号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号10号住居跡。南側調査区の北端に位置し、遺構の大半は調査区域外に所在する。西側は25号遺構（溝）に削平されるが、推定される平面形は方形の竪穴住居跡である。残存長径4.30m、残存短径3.38mを測り、西側周溝の内側から求められる主軸方位はおおむねN-28°-Wを示す。

残存する壁高は南側で29.3cmを測る。炉は未検出である。周溝は調査範囲内で全周し、深さは1~3cmを測る。ピットは3か所に検出され、P2は位置的に支柱穴と想定される。深さはP1が53.0cm、P2が71.3cm、P3が6.2cmを測る。

なお、本遺構南西コーナー部の覆土上層中に38号遺構（貝ブロック）が所在している。

#### 遺物

本遺構からは337点3,713.0gの土器片が検出された。土器片の内訳は、203点3,215.7gの土師器、5点58.3gの須恵器、128点426.7gの弥生土器、1点12.3gの近世陶器であり、このうち5点を図示した。1・4は床直で検出されており、本遺構に直接伴う遺物と判断される。

#### 25号遺構（溝）

平成27年度調査時遺構番号13号溝。南側調査区の北端に位置し、24号遺構の西側を削平して存在する溝状の遺構である。遺構の大半は調査区域外に所在すると想定されるが、隣接する北側調査区検出37号溝とは方向が異なることから、おそらく北側調査区に至る間に方向を90度変換させる溝と推定される。残存長径3.00m、残存短径0.84mを測り、確認面からの深さは12.8~21.5cmを測る。

#### 遺物

本遺構からは13点338.0gの土師器片と2点186.4gの瓦片が検出され、このうち3点を図示した。いずれも平安時代の土器群であり、依存状態も比較的良好なことから、本遺構の帰属時期を示す遺物と

考えられる。

### 26号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号15号住居跡及び26号土坑。周囲の重複する竪穴遺構の全てに削平されて存在する楕円形プランの竪穴住居跡である。本遺構平面図は、東側の遺構本来の壁立ち上りを見落としとして調査終了に至ったため、極めて歪な調査平面図であった。整理に際し、旧26号土坑については、本遺構の南東コーナー部に位置する貯蔵穴とし、さらに本来存在した東壁を復元した平面図で報告することとした。支柱穴の位置から復元される推定長径6.18m、東壁の復元によって推定される短径5.14mを測り、主軸方位はN-15°-Wを示す。炉はP1・P2間の中央やや南寄りに検出され、長さ70cm、幅30cm、深さ16.7cmを測り、火床長軸方位はN-13°-Wを示す。

残存する壁高は西側で8.3cm、南側で22.9cmを測る。周溝は南側に検出され、深さは2.7～3.5cmを測る。ピットは5か所に検出された。P1～P4は位置的に支柱穴、P5は調査時単独の旧26号土坑であるが、位置的に本遺構の貯蔵穴とした。深さはP1が63.4cm、P2は39.2cm、P3が28.7cm、P4は61.8cm、P5が21.3cmを測る。

当初東壁としたP2、P4東側の4.0～18.6cm程の立ち上がりは、位置的に見てベッド状遺構である可能性が極めて高い。

#### 遺物

本遺構からは99点865.3gの土器片が検出された。土器片等の内訳は、59点303.6gの土師器、1点34.1gの須恵器、38点517.3gの弥生土器、1点10.3gの縄文土器であり、これらの遺物のうち3点を図示した。

いずれの土器も床面からやや浮いた状態で検出されている。2・3は同一個体の口縁部と胴部であるが、接合に至らない。

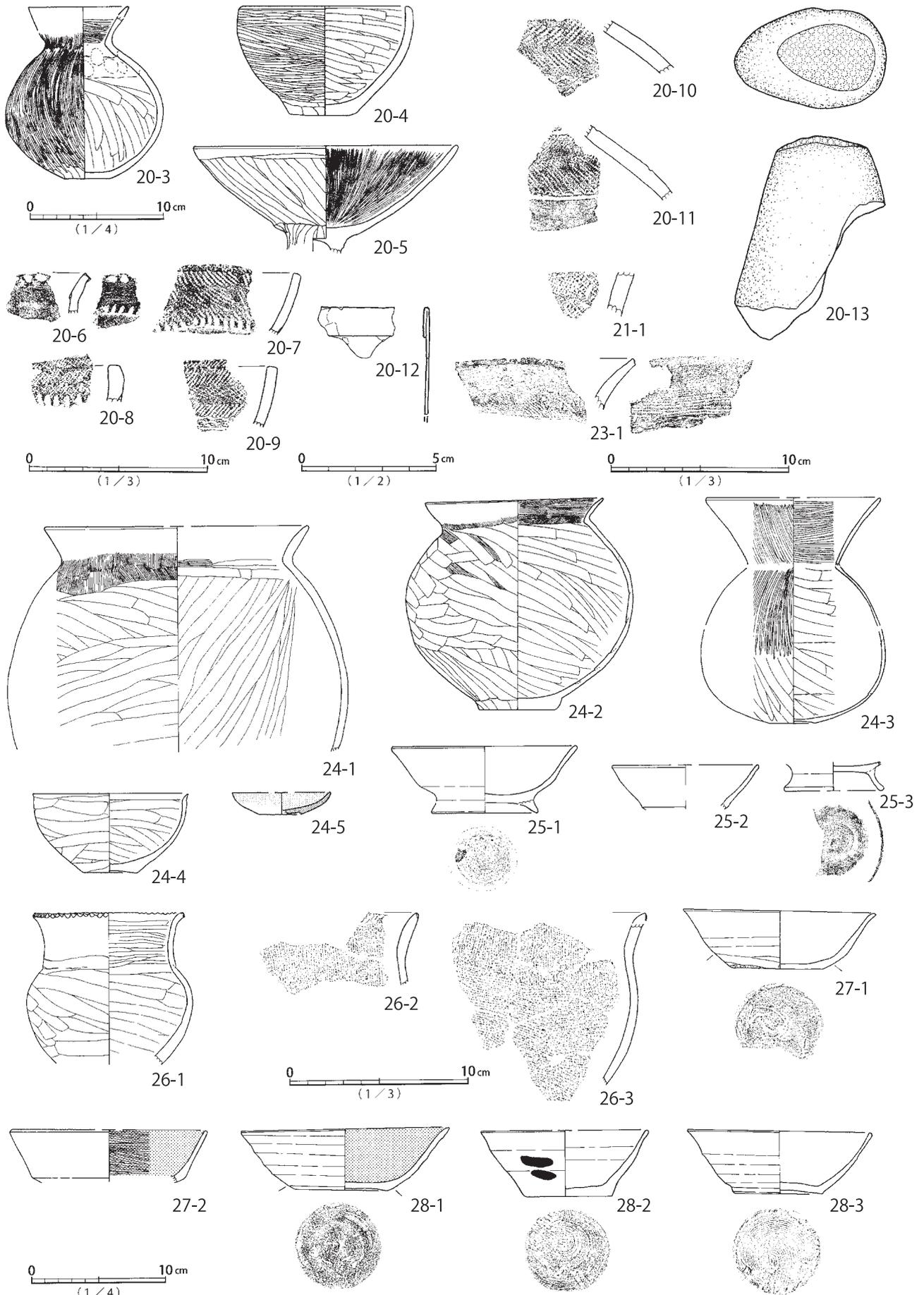
### 27号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号12・14号住居跡の一部。遺構プラン確認段階では14号遺構を削平するプランとして検出され、調査段階では旧12・14号住居跡をそれぞれ単独の住居跡とみなしたことから、遺構の存在を見逃した竪穴住居跡である。

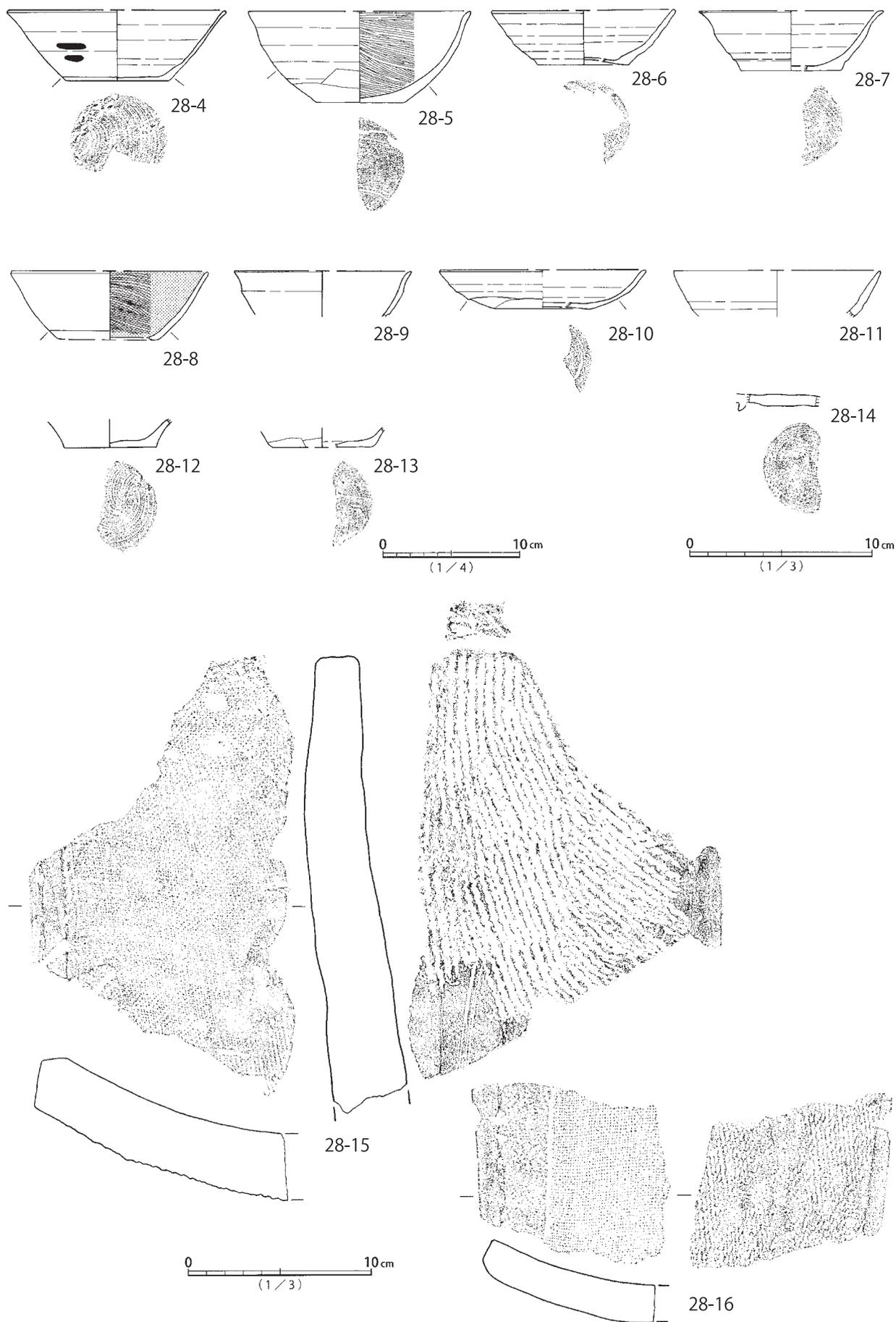
第8図からこの関係を説明すると、カマドを保有する旧12号住居跡の本来の遺構プランは、南東コーナー部のP2かすめる周溝及び周溝延長線上の壁立ち上がりから構成され、これに対して整理段階で12A号の新番号を付した。なおこの関係は、写真図版PL.5により、12A号の遺構プランが第8図破線で示すように、黒く写っていることから確認できる。

このことにより、遺構確認の際に30号遺構を削平するプランのうち、28号遺構を除いた東側の範囲は、旧12A号（28号遺構）とは別遺構であると判断される。さらに、旧12B号（27号遺構）の南東コーナー部と旧12A号（28号遺構）の南壁立ち上がりラインとは微妙に食い違っていることや、北東コーナーから西側に伸びる壁立ち上がりの中央に、カマド煙道部を想定させる突出が認められることなどから、この遺構プランに対しては、整理段階で12B号を付し、旧12A号（28号遺構）とは別遺構との判断で整理を進めた（写真図版PL.5・6）。

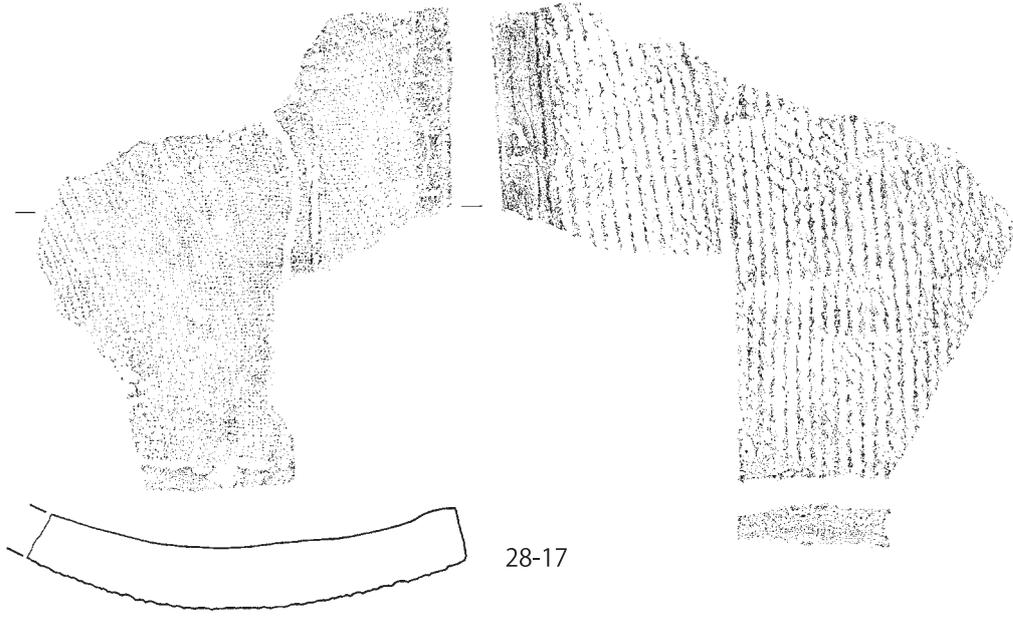
遺構の重複状態より、26・30号遺構を削平し、28号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。長径3.78m、残存短径1.36mを測り、主軸方位はN-2°-Wを示す。カマドは北壁中央に構築されてい



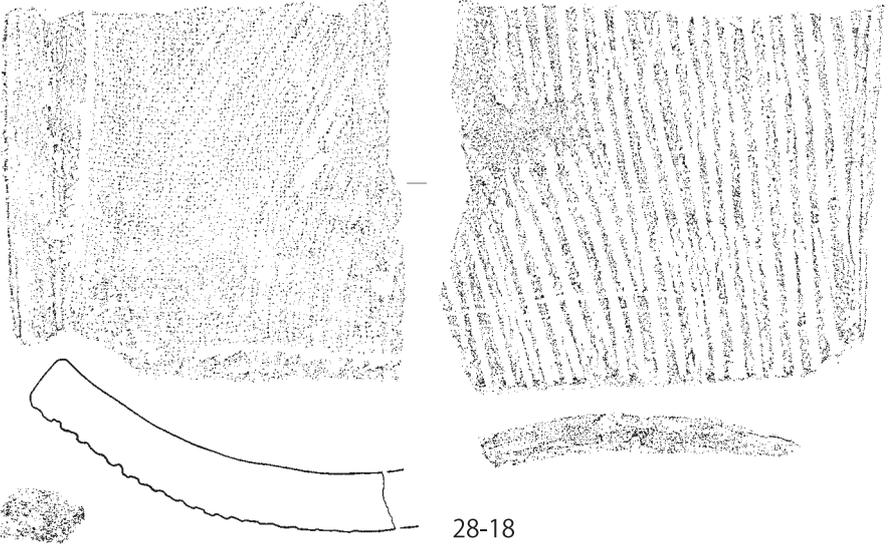
第11图 20·21·23~28号遺構出土遺物実測図



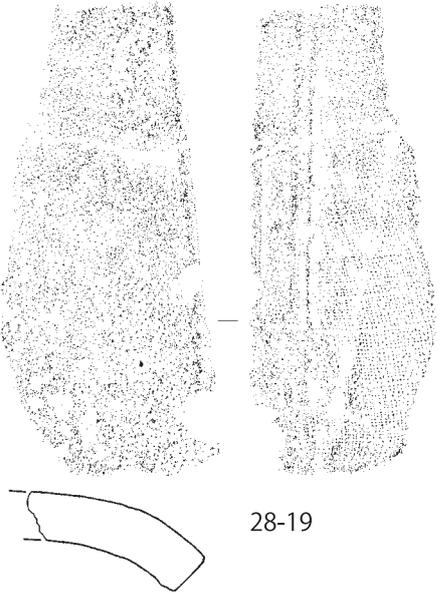
第12図 28号遺構出土遺物実測図



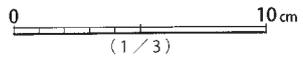
28-17



28-18



28-19



第13图 28号遺構出土遺物実測図  
- 26 -

たものと想定され、煙道と推定される痕跡が、P3によって削平されながらも残存する。周溝は未検出であり、残存する壁高は南側で10.0cm、北側で29.0cmを測る。ピットは3か所に検出されたが、支柱穴はない。深さはP1が58.9cm、P2は15.8cm、P3が21.2cmを測る。

#### 遺物

本遺構出土遺物については、一括を含めて全て旧12号出土遺物として取り上げられたため存在していない。しかし、カマド煙道部と思われる突出部を削平して存在するP3から出土したドット取り上げ遺物を、旧12号出土遺物から切り離して本遺構出土遺物とした。総数4点198.2gの土師器が本遺構出土遺物であり、これらの遺物のうち2点を図示した。

#### 28号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号12号住居跡の一部。第8図に示す範囲が本遺構の平面プランである。

長径3.80m、残存短径1.68mを測り、主軸方位はN-4°-Wを示す。カマドは北壁中央に構築されていたものと想定され、煙道と推定される突出部に粘土の分布が認められるが、調査図面はない。

残存する壁高は南側で15.9cm、北側で21.1cmを測る。周溝は南東コーナー部から東壁にかけて検出され、深さは3.1~10.2cmを測る。ピットは3か所に検出され、深さはP1が30.0cm、P2は16.1cm、P3が13.8cmを測る。

#### 遺物

本遺構からは351点3,115.1gの土器片と、5点13.0gの自然石、12点44.1gのスラグ等、12点4,360.6gの瓦片が検出された。土器片等の内訳は、327点2,633.6gの土師器、19点446.6gの須恵器、5点34.9gの灰釉陶器、9点34.9gの鉄滓、3点9.2gのスラグであり、これらの遺物のうち19点を図示した。

1・2・4~14は、いずれも床直若しくは床直上から出土しており、本遺構に直接伴う遺物と考えられる。また、2・4の体部外面には、墨書で「二」の文字が記されている。16~19の瓦も比較的床面に近い位置で出土している。このうち19の瓦は、位置的にカマド内で転用支脚として使用されていたようであり、倒立した状態で検出されている。

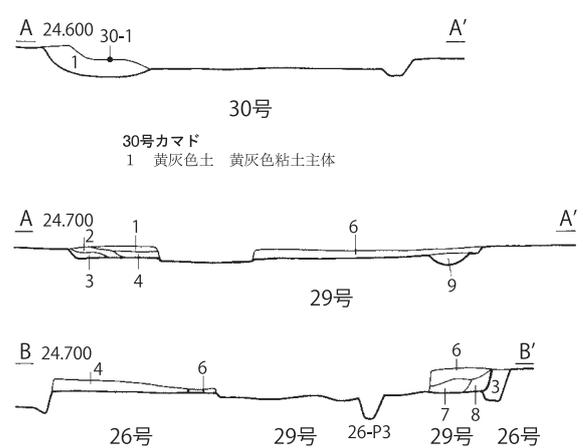
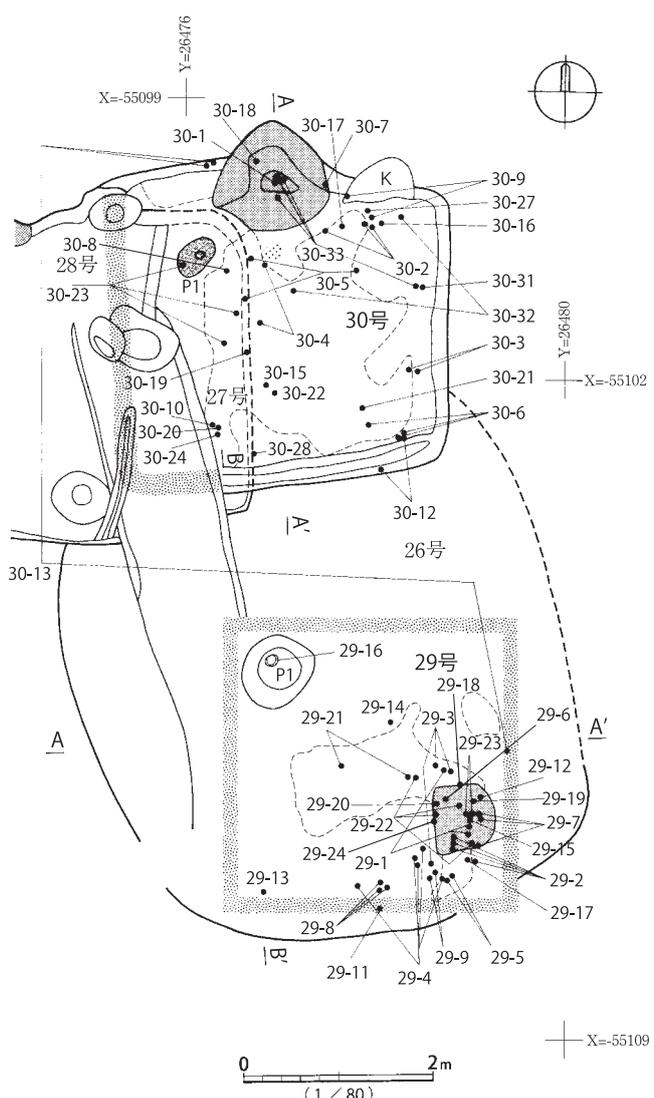
#### 29号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号19号住居跡及び32号土坑。26号遺構との新旧関係を明確にとらえきれないまま調査に及んだため、遺構プランが消滅した竪穴住居跡である。本遺構と時期を同じくする旧32号土坑を本遺構の北西コーナー部に所在する貯蔵穴、粘土分布範囲を本遺構の南東コーナー部に近い位置に所在したカマドとみなすことによって、第14図に示した範囲が本遺構の平面プランと想定される。

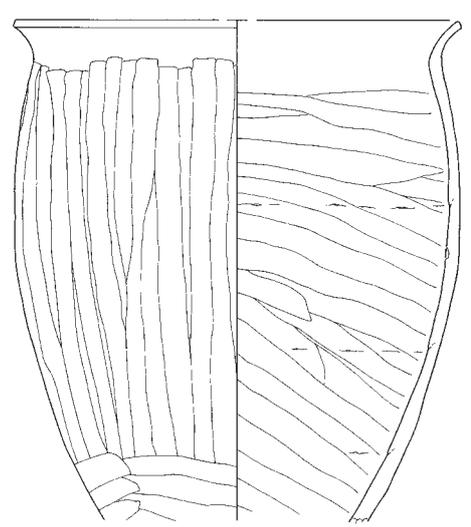
推定長径3.12m、推定短径3.10m前後、平面プランはほぼ方形と想定され、床面の深さは、周囲の遺構確認面から29.6cmを測る。カマドは東壁中央より南側に偏った地点に構築されていたと想定され、周囲に粘土が濃密に分布するが、平面図はない。本遺構の貯蔵穴と想定されるピットは、北西コーナー部から検出され、深さは27.8cmを測る。ピット底面からは、本遺構と時期を同じくする完形の土師器坏（第15図、29-16）が検出されている。

#### 遺物

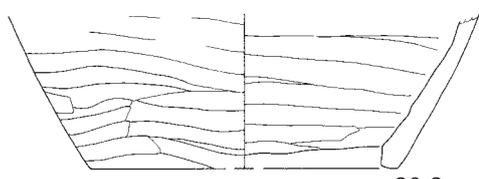
本遺構からは375点5,400.6gの土器片と、4点528.9gの礫・石器、3点883.8gの瓦片が検出された。土器片等の内訳は、341点4,752.3gの土師器、11点425.4gの須恵器、22点211.8gの弥生土器、1点



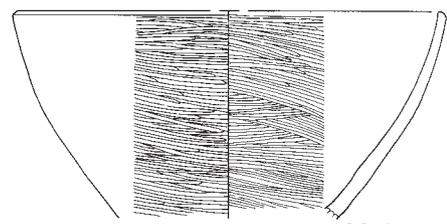
- 26号遺構**
- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
  - 2 黒褐色土 有機質土主体
  - 3 暗褐色土 ローム粒、ロームB含む。
  - 4 暗褐色土 焼土粒含む。
  - 5 赤褐色土 焼土。炉
- 29号遺構**
- 6 暗褐色土 焼土粒散る。
  - 7 暗褐色土 粘土粒、焼土粒少量含む
  - 8 褐色土 ローム粒、ロームB含む。
  - 9 暗褐色土 ローム粒含む。



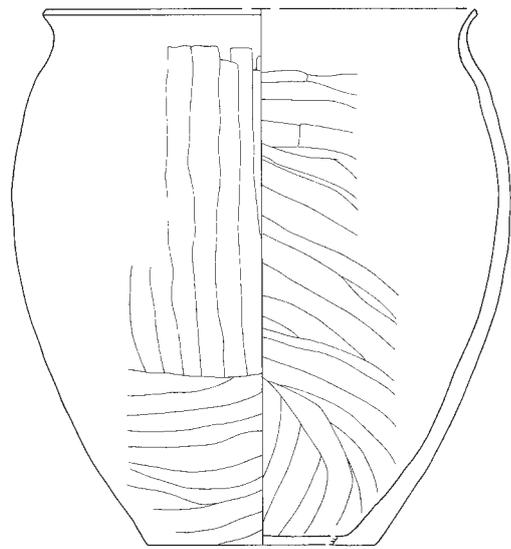
29-2



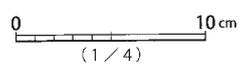
29-3



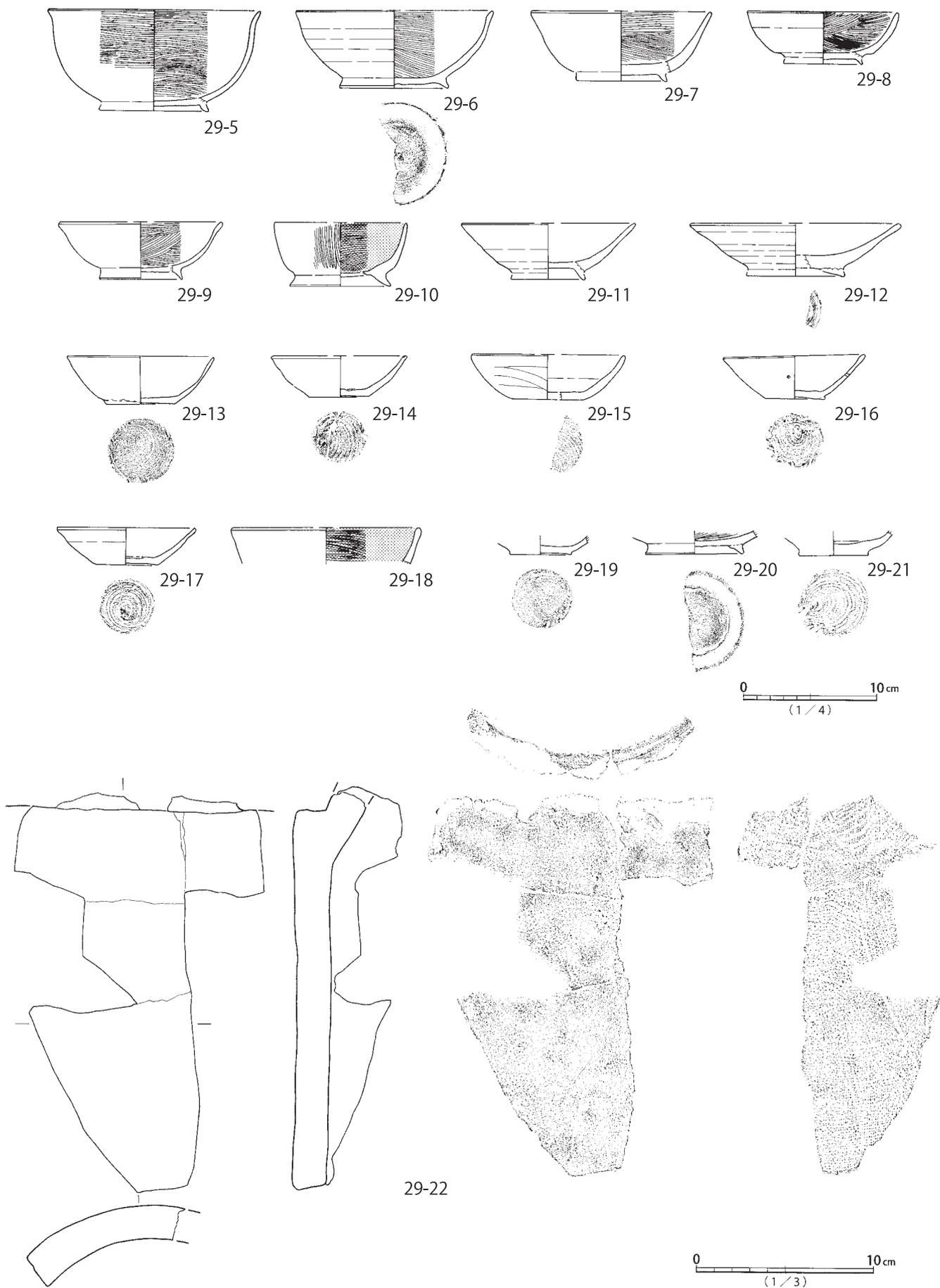
29-4



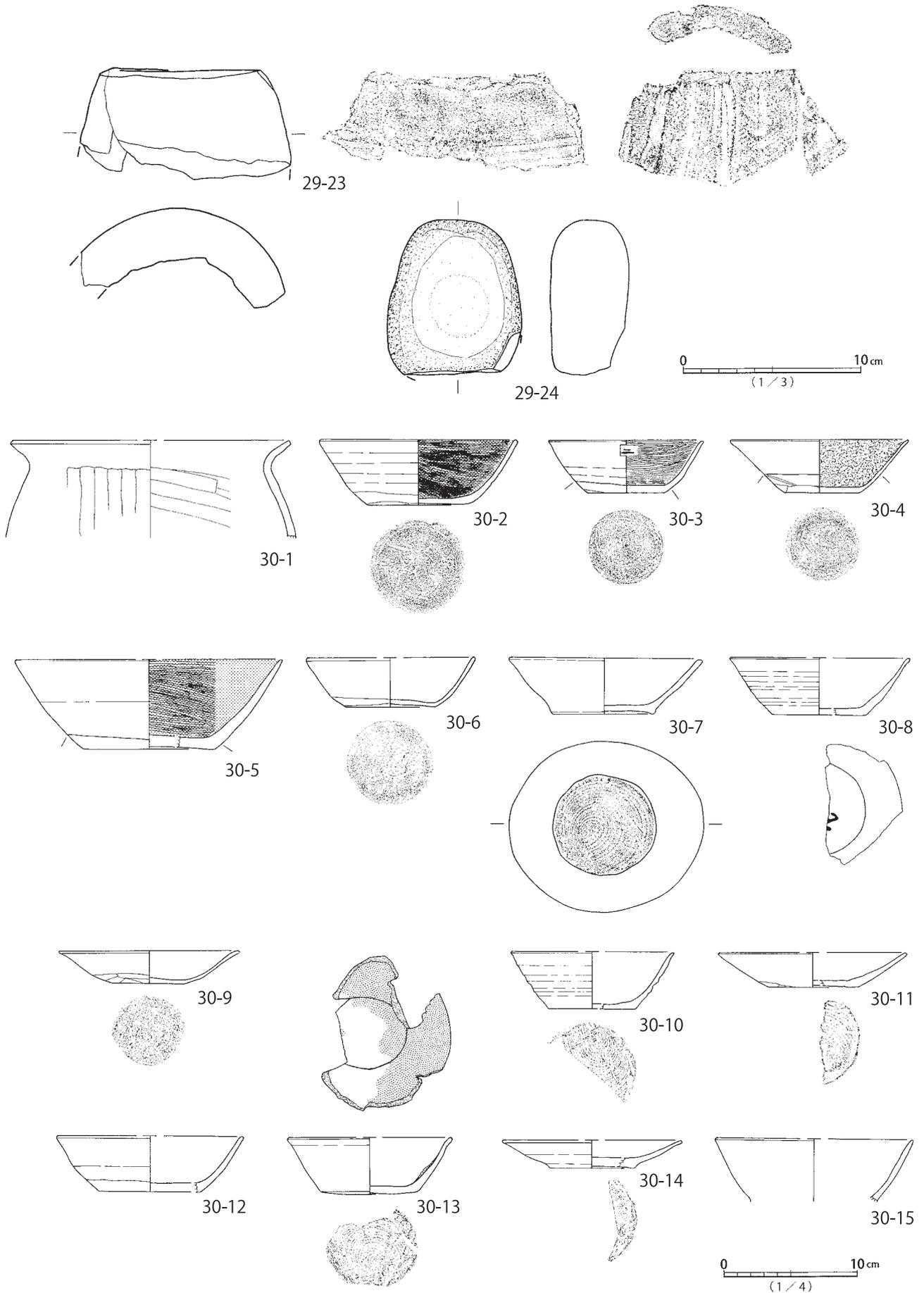
29-1



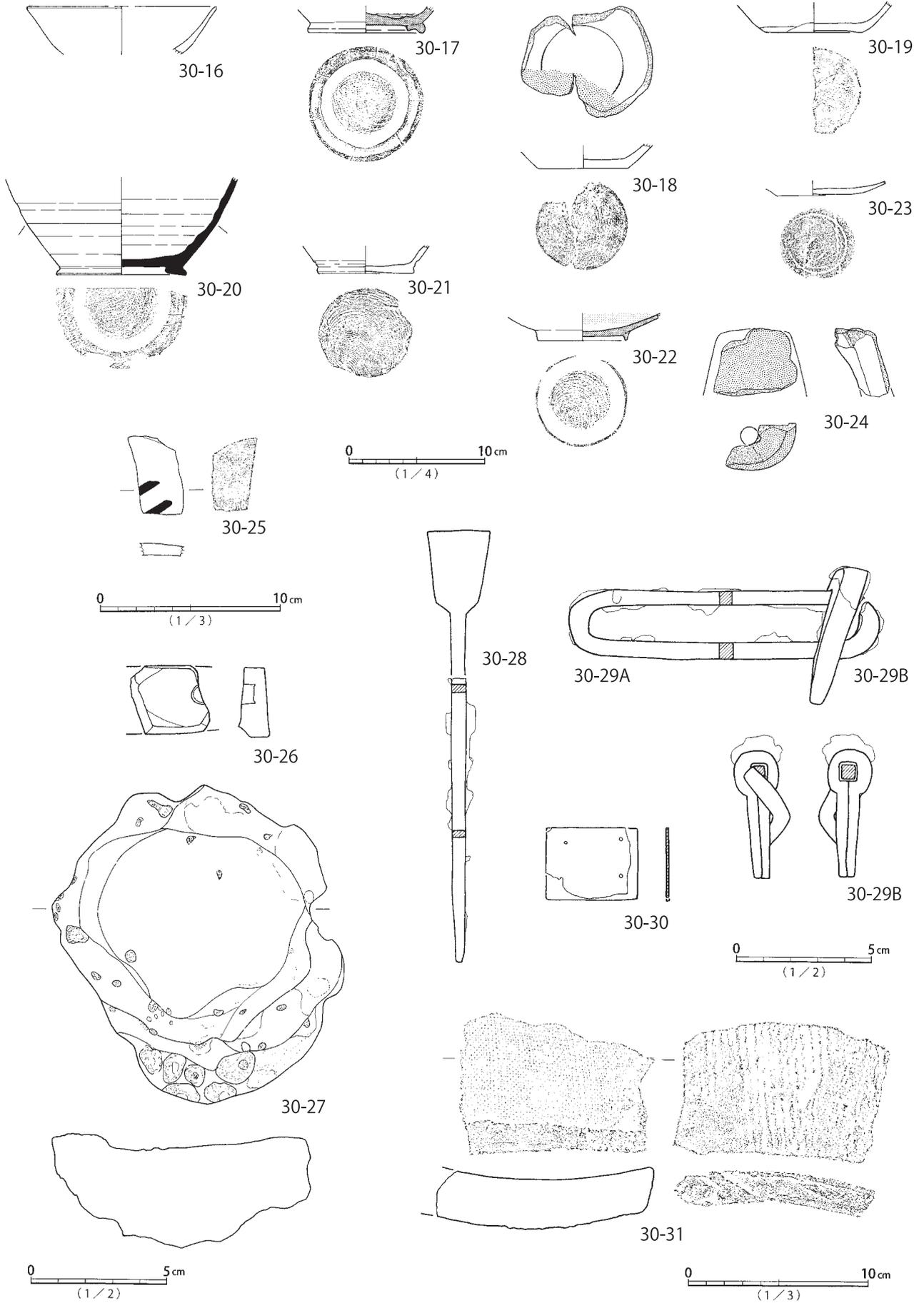
第14図 26・29・30号遺構実測図、29号遺構出土遺物実測図



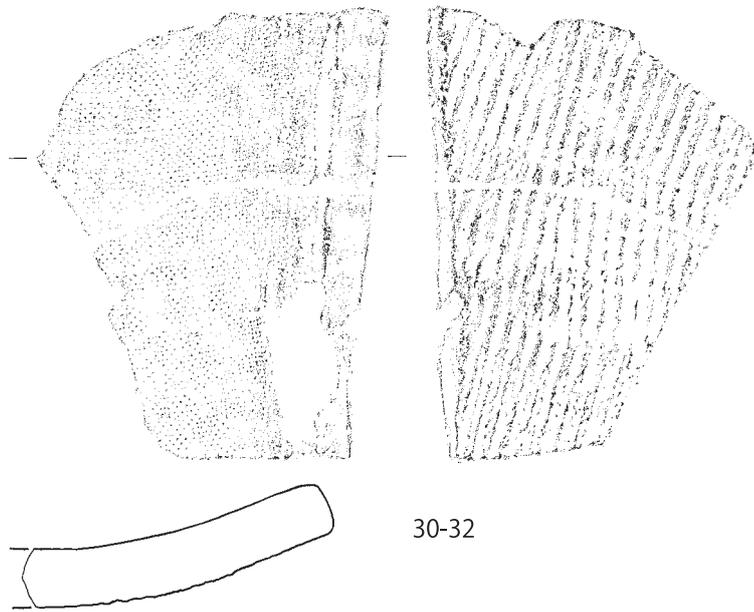
第15図 29号遺構出土遺物実測図



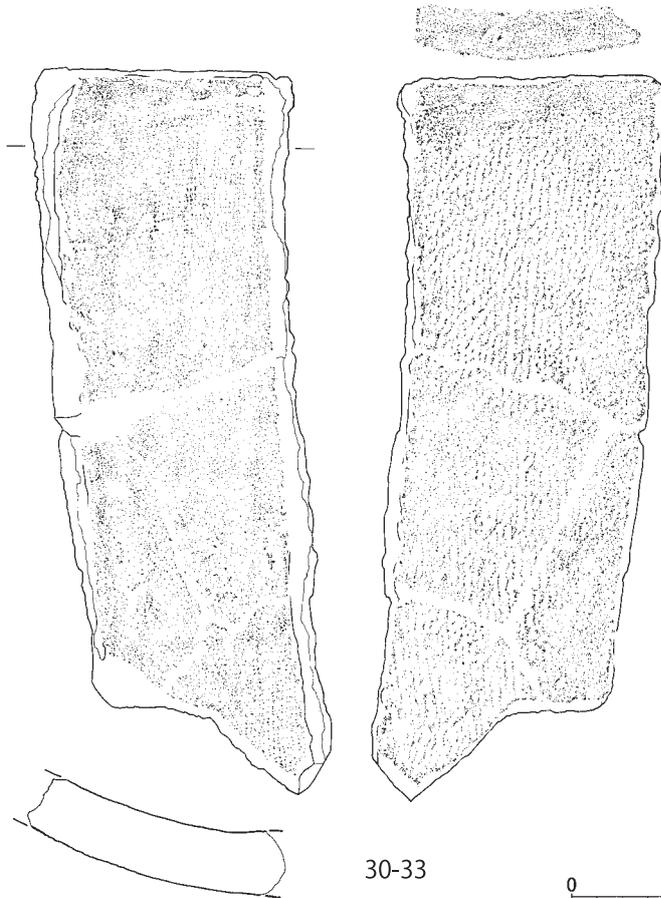
第16图 29・30号遺構出土遺物実測図



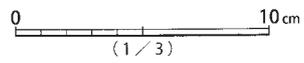
第17图 30号遺構出土遺物実測図



30-32



30-33



第18図 30号遺構出土遺物実測図

11.1 g の縄文土器、3点80.4 g の自然石、1点448.5 g の磨石であり、これらの遺物のうち24点を図示した。

1～5・9・12・14・16・18～24は、いずれも床直若しくは床直上から出土しており、本遺構に直接伴う遺物と考えられる。本遺構出土の坏類からは、内黒高台付坏の出土が多く、土師器坏類が小型化しているなどの特徴が認められる。

### 30号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号14号住居跡及び27号遺構。南側調査区の北側に位置し、26号遺構を削平し、27号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。調査段階では、カマド西側の硬化面に対して27号遺構の番号が付されていたが、整理作業の結果、単独の竪穴住居跡として報告する。

長径3.90m、残存短径2.88mを測り、主軸方位はN-2°-Wを示す。カマドは北壁中央に構築されるが、平面図はない。周溝は南側に検出され、深さは4.5～12.2cmを測る。残存する壁高は東側で24.1cm、南側で5.3cm、北側で21.2cmを測る。ピットは1か所に検出され、深さは11.9cmを測る。

#### 遺物

本遺構からは544点5,473.5 g の土器片と、10点418.2 g の礫・石器、7点819.1 g の金属器等、9点2,684.0 g 土製品が検出された。土器片等の内訳は、501点3,753.9 g の土師器、28点1,394.6 g の須恵器、12点59.7 g の弥生土器、3点265.3 g の灰釉陶器、7点390.9gの自然石、3点27.3gの砥石片、4点761.1 g の鉄滓、3点58.0 g の金属器、1点64.1 g の轡羽口片、8点2,619.9 g の瓦片であり、これらの遺物のうち33点を図示した。

1・2・4～6・12・13・15・16・18・22・23は、いずれも床直若しくは床直上から出土しており、本遺構に直接伴う遺物と考えられる。また、3の体部内面及び25の底部外面には、墨書きの「二」の文字が確認されており、28号遺構との共通性が認められる。墨書資料としては、8の土師器坏底部外面からも、判読不明ながら墨書文字を確認することができる。

13・18は2次過熱を受けた土師器発泡土器で、発泡範囲が灰色に変化している。26は砥石片であり、径8mmほどの不貫通の円孔が存在する。27は椀型鉄滓で、地金の依存は良好である。28は鑿状工具等の茎と想定され、29は用途不明の鉄製品である。30は銅製の帯金具裏当金であり、4か所に径1mm程の貫通孔が所在し、4点の鋌によって本体の帯金具と結合していた痕跡が認められる。

### 31号遺構（竪穴住居跡）

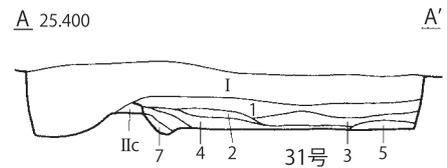
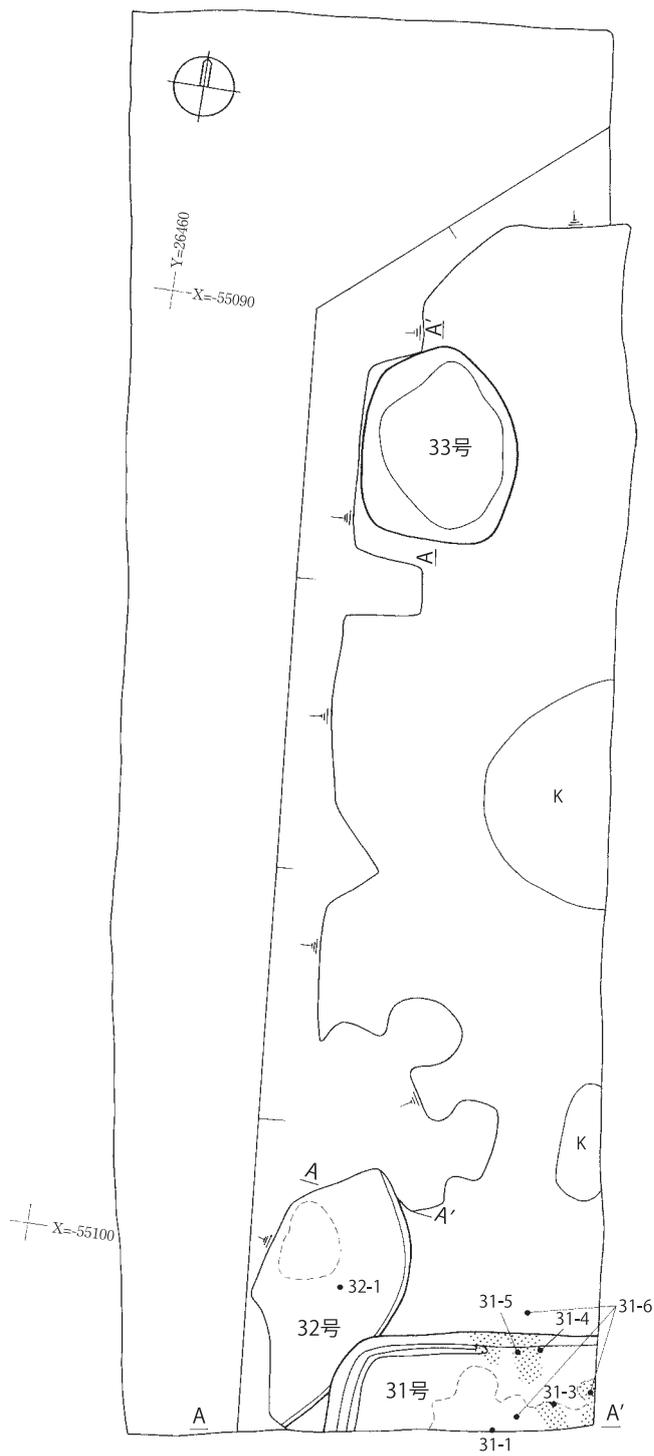
平成27年度調査時遺構番号33号住居跡。中央調査区南側に位置し、32号竪穴を削平して存在する竪穴住居跡である。

遺構の大半は調査区域外に存在し、残存長径2.84m、残存短径1.06mを測るが、主軸方位は不明である。位置的にカマドと想定される粘土が、北壁に沿って検出されているが、平面図はない。周溝は西壁から北壁に沿って検出され、深さは3.7～8.6cmを測る。残存する壁高は西側で18.4cm、北側で21.9cmを測る。

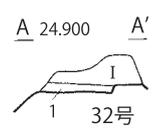
#### 遺物

本遺構からは67点408.8 g の土器片と、7点1,171.0 g の土製品が検出された。土器片等の内訳は、31点225.2 g の土師器、2点25.2 g の須恵器、34点158.4 g の弥生土器、7点1,171.0 g の瓦片であり、これらの遺物のうち6点を図示した。

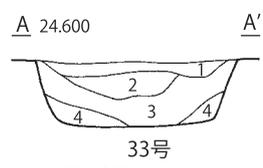
2を除いた遺物は、床直や粘土密着の状態を検出されており、本遺構に直接伴う遺物と考えられる。



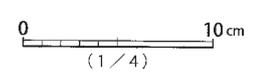
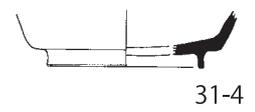
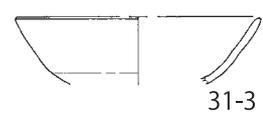
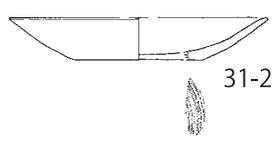
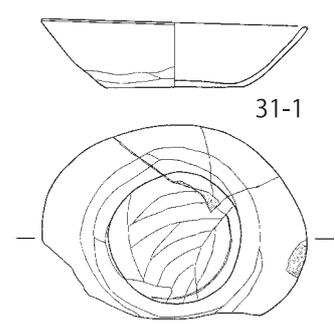
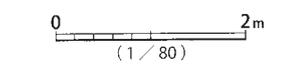
- 31号遺構**
- 1 暗褐色土 ローム粒混入
  - 2 黒褐色土 有機質土主体
  - 3 黒褐色土 ローム粒、ロームB混入。
  - 4 黒褐色土 ローム粒、ロームB含む。
  - 5 暗褐色土 ローム粒含む。
  - 6 黒褐色土 ローム粒含む。
  - 7 褐色土 汚れたローム粒、ロームB多量に含む。
  - IIc 暗褐色土 基本層序 縄文土器包含層



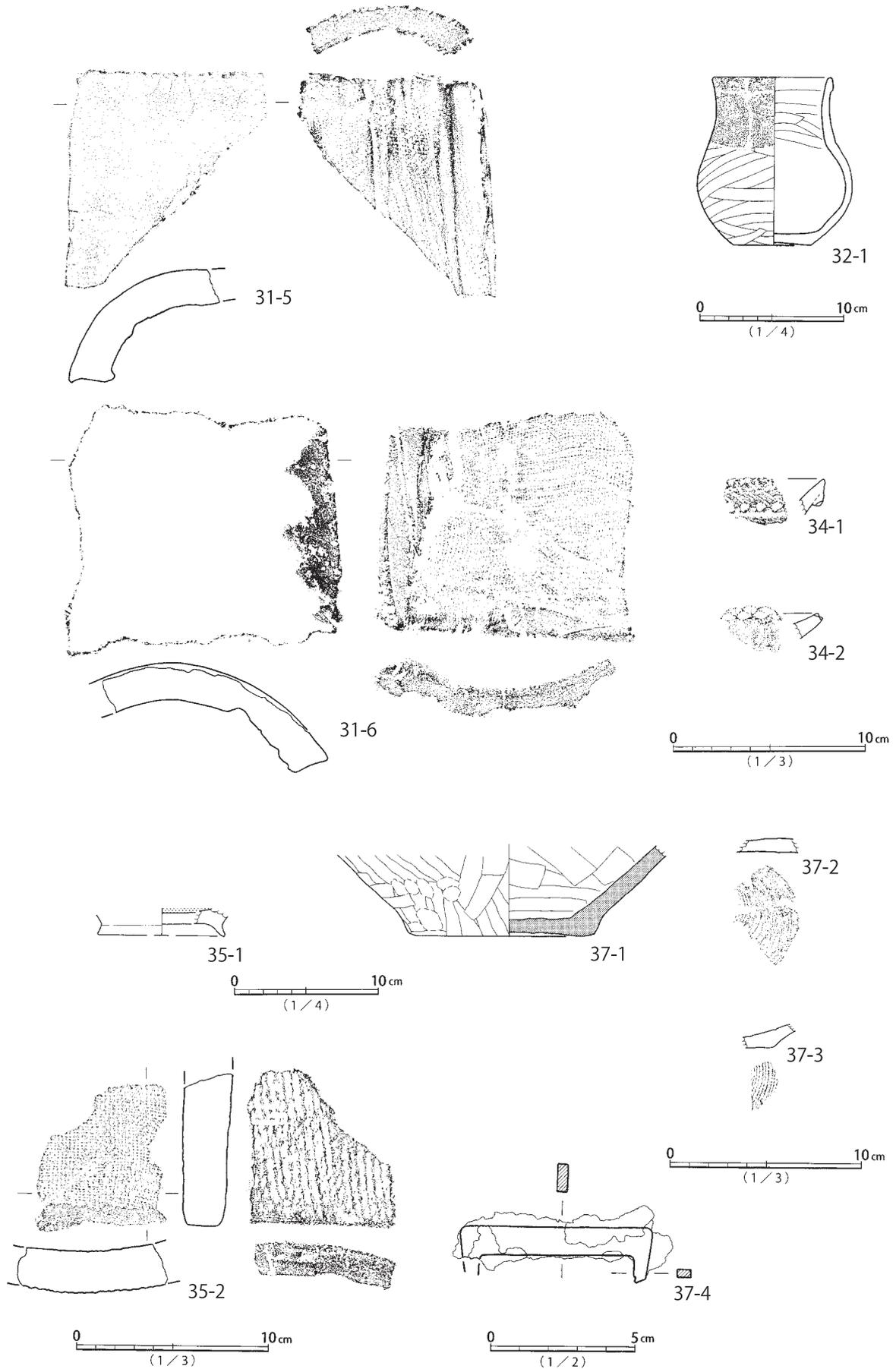
- 32号遺構**
- 1 暗褐色土 基本層序 現表土
  - 1 暗褐色土 ローム粒含む。



- 33号遺構**
- 1 暗褐色土 宝永火山灰をブロック状に含む。
  - 2 褐色土 ローム粒混入
  - 3 褐色土 ローム粒、ロームB含む。
  - 4 褐色土 汚れたローム粒、ロームB多量に含む。



第19図 31~33号遺構実測図、31号遺構出土遺物実測図



第20図 31・32・34・35・37号遺構出土遺物実測図

### 32号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号34号住居跡。中央調査区南側に位置し、遺構の大部分は宅地造成により削平されて存在する竪穴住居跡である。

残存長径2.90m、残存短径1.48mを測るが、主軸方位は不明である。炉・周溝・ピットとも未検出であり、残存する壁高は東側で13.8cmを測る。

#### 遺物

本遺構からは6点326.4gの弥生土器片が検出され、これらの遺物のうち1点を図示した。

1の弥生小型広口壺は、床直で検出されており、本遺構に直接伴う遺物と考えられる。口縁から頸部にかけて、植物「オオバコ」の回転による疑縄文が施されている。

### 33号遺構（土坑）

平成27年度調査時遺構番号35号土坑。中央調査区北側に位置する不正楕円形の土坑である。長径2.10m、短径1.72m、深さ最大71.5cmを測り、主軸方位はN-39°-Wを示す。残存する壁高は東側で69.8cm、西側で71.0cm、南側で72.6cm、北側で70.1cmを測り、底面からピット等は検出されなかった。

#### 遺物

本遺構からは2点21.6gの須恵器片が検出されたが、細片のため図示に至らない。

### 34号遺構（竪穴住居跡）

平成27年度調査時遺構番号22号住居跡。北側調査区西側に位置し、遺構の大半は調査区域外に存在する竪穴住居跡である。

残存長径4.50m、残存短径0.90mを測るが、主軸方位は不明である。炉・周溝・ピットとも未検出であり、残存する壁高は、東側で22.8cmを測る。

#### 遺物

本遺構からは10点79.0gの弥生土器片が検出され、これらの遺物のうち2点を図示した。1は弥生壺、2は弥生甕口縁部であるが、出土地点は明確でない。

### 35号遺構（土坑）

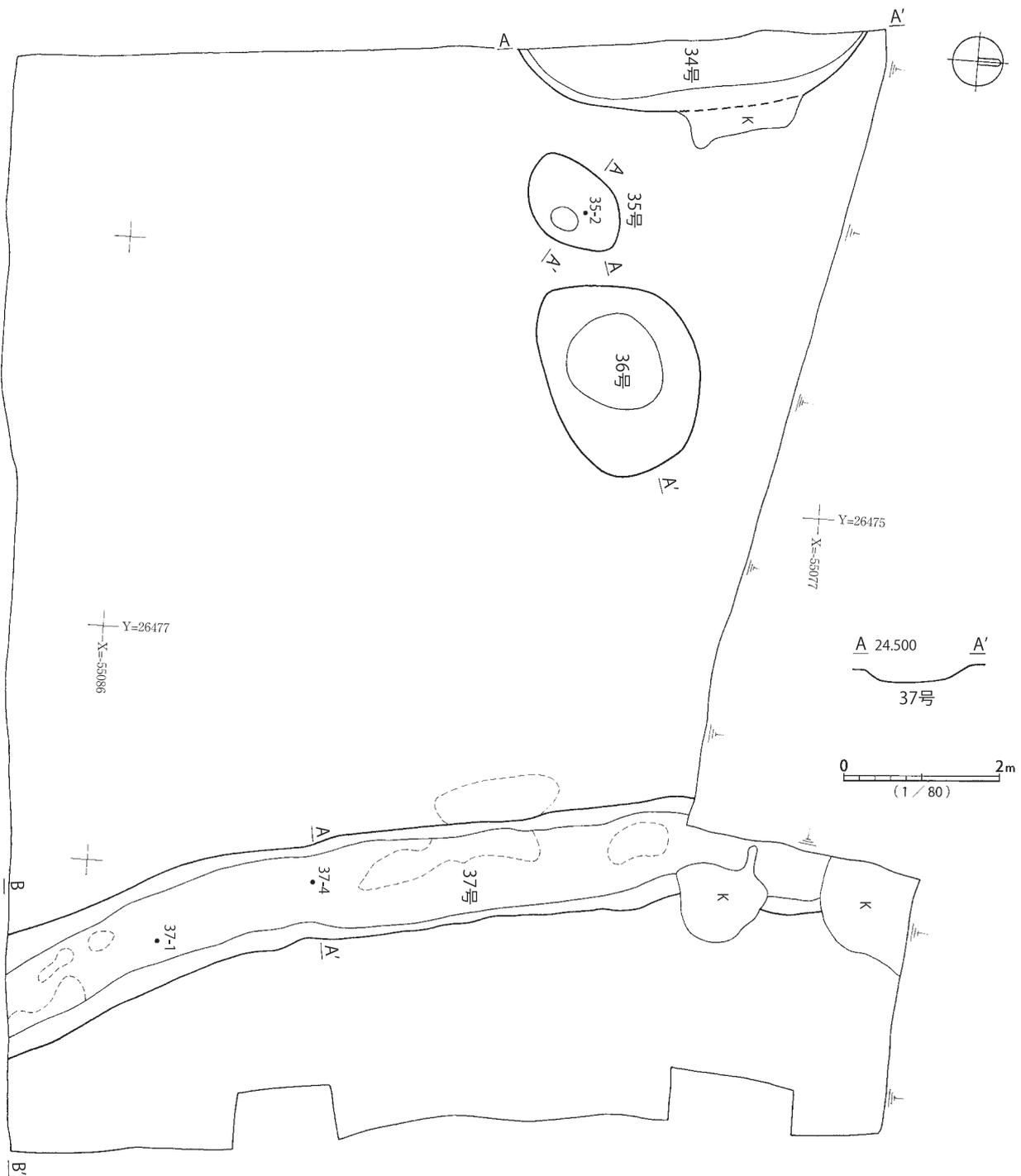
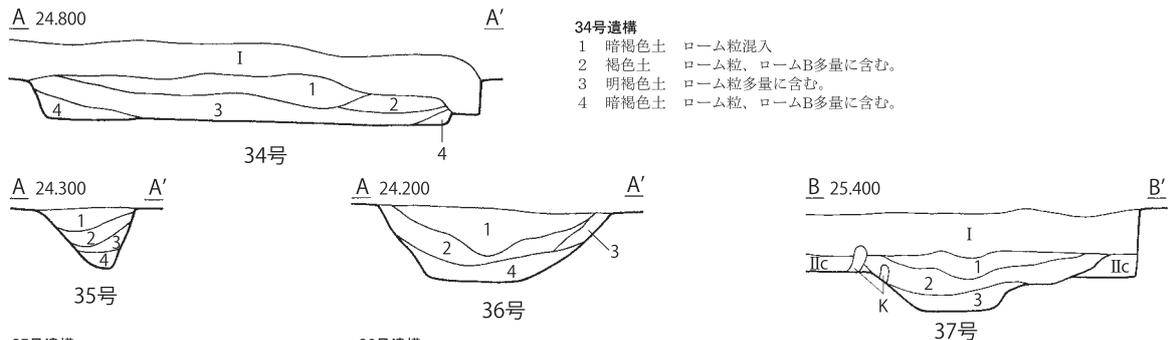
平成27年度調査時遺構番号23号土坑。北側調査区34号竪穴の東側に位置する不正形の土坑である。長径1.44m、短径1.02m、深さ最大67.3cmを測り、主軸方位はN-47°-Eを示す。残存する壁高は東側で61.8cm、西側で64.1cm、南側で58.7cm、北側で65.7cmを測り、底面からピット等は検出されなかった。

#### 遺物

本遺構からは6点38.2gの土器片と1点178.1gの土製品が検出された。土器片等の内訳は、1点15.2gの土師器、4点16.9gの弥生土器、1点6.1gの縄文土器、1点178.1gの瓦片であり、これらの遺物のうち2点を図示した。1は覆土一括で検出された土師器高台付坏、2は底面から44.5cm浮いた状態で検出された瓦片である。

### 36号遺構（土坑）

平成27年度調査時遺構番号24号土坑。北側調査区35号土坑の東側に位置する不正形の土坑である。長径2.58m、短径2.04mを測り、主軸方位はN-40°-Eを示す。残存する壁高は東側で70.2cm、西側で85.7cm、南側で83.2cm、北側で71.7cmを測り、底面からピット等は検出されなかった。



第21図 34~37号遺構実測図

## 遺物

本遺構からは、遺物が全く検出されなかった。

### 37号遺構（溝）

平成27年度調査時遺構番号16号溝。北側調査区を南北に横断する溝である。調査区域内では長さ10.50m以上、幅1.1～1.3m、深さ28.8～32.8cmを測り、断面は逆台形を呈している。覆土上層に宝永火山灰を含んでおり、時期的に6号遺構(溝)との共通性が認められる。

## 遺物

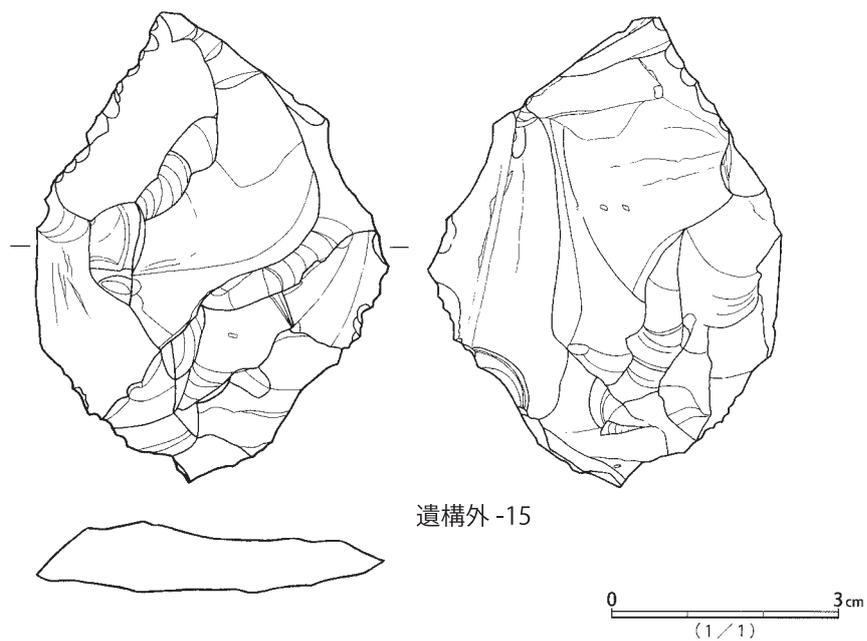
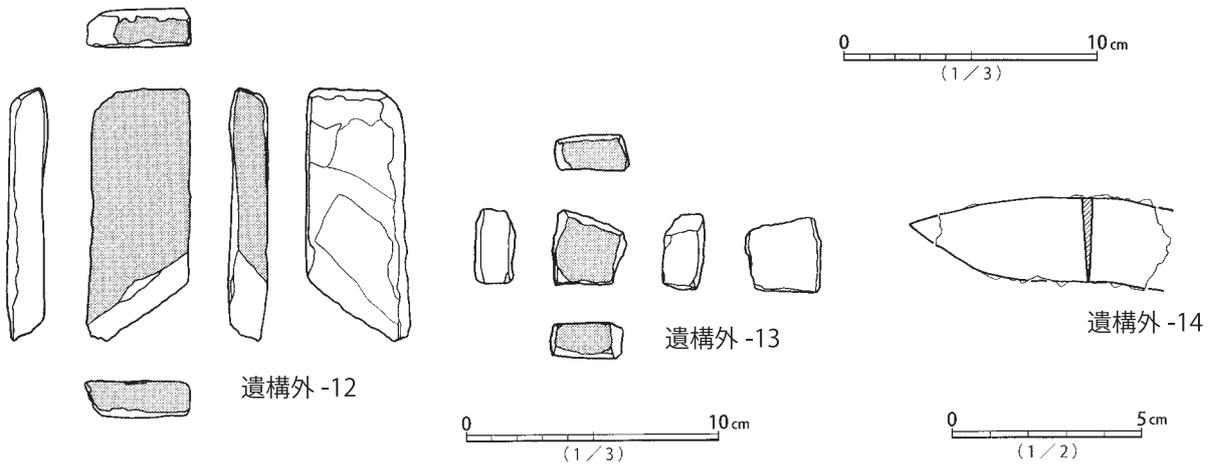
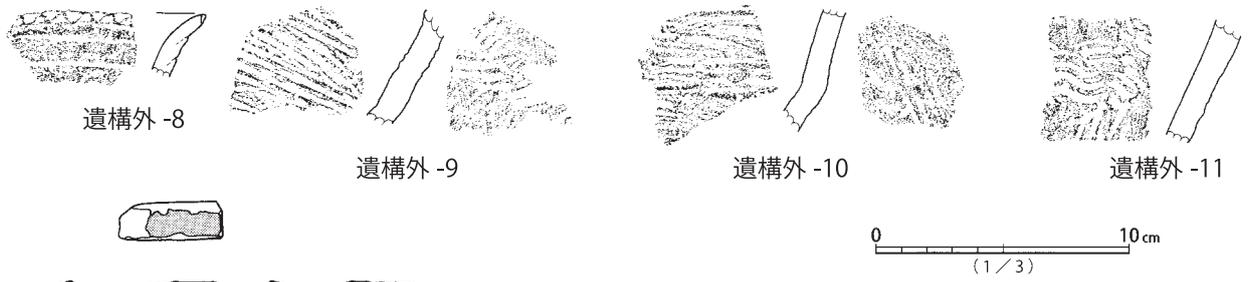
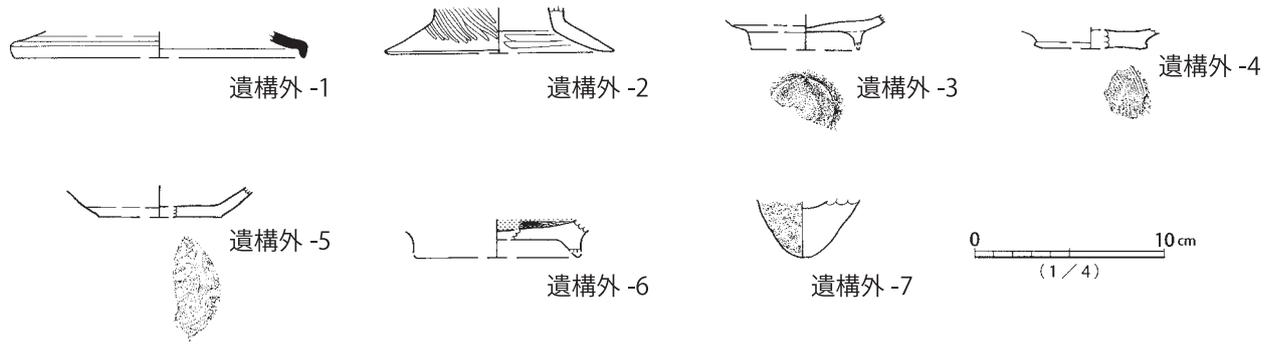
本遺構からは127点1,154.6gの土器片と5点174.6gの自然石、3点107.9g鉄器等、13点686.6gの瓦が検出された。土器片等の内訳は、107点406.7gの土師器、14点249.1gの須恵器、5点36.0gの弥生土器、1点462.8g中世陶器、2点87.9gの鉄滓、1点20.0gの鉄器であり、これらの遺物のうち4点を図示した。1は、常滑片口鉢であり、溝底面から4cm程浮いた状態で検出されている。2・3は土師器坏底部であり、覆土一括で取り上げられている。4は「コ」の字形を呈すると想定される用途不明鉄器であり、溝底面から6cm程浮いた状態で検出されている。

### 38号遺構（貝ブロック）

平成27年度調査時遺構番号なし。24号遺構竪穴住居跡の南西コーナー部の覆土上層に位置し、長径0.84m短径0.59mを計るが、深さの測定値はない。検出された主な貝種は、シオフキ・アサリ・ハマグリ等であり、詳細については、第Ⅲ章「稲荷台遺跡L8地点の貝類遺体について」で述べる。

## 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物を第22図にまとめた。1は須恵器蓋、2は和泉式土器の高坏脚部、3～6は土師器坏底部、7は縄文早期尖底土器底部、8は弥生甕口縁部、9～11は縄文早期条痕文系土器、12・13は砥石片、14は鉄器小型鎌先端部、15はスクレイパーである。



第22図 遺構外出土遺物実測図

### Ⅲ 稲荷台遺跡L 8 地点の貝類遺体について

#### 貝層の概要と分析の方法

南側調査区北東隅の24号遺構（竪穴住居跡）南西コーナー部から貝層が検出された。貝層には38号遺構（貝ブロック）の番号が付与されているが、調査担当者の所見では、竪穴住居跡に伴うものと理解されている。貝層中から土器等の遺物は検出されていないが、竪穴住居跡から出土する遺物の特徴から、貝層の形成時期は古墳時代前期と考えられる。

貝サンプルは、土嚢袋4袋に全量が採取され、総重量は30,250 gを量る。選別作業は10・4・1mmメッシュの試験用フルイを用いて、水洗選別により行った。水洗選別後の残留物の重量は8,507 gを量り、貝層の混土率は71.9%であった。

分類作業により抽出された資料は貝類のみで、脊椎動物骨は認められなかった。出土貝類種の同定は、市原市埋蔵文化財調査センター所蔵の現生・貝塚出土貝類標本との比較により行った。集計は、腹足綱（巻貝）では軸部を完存するもの、二枚貝綱では殻頂部の残存するものを対象とした。二枚貝類は左右殻の出土数量の多い方をもって出土個体数（最小個体数）とし、出土量の多いハマグリ・シオフキガイ・アサリの3種については、左右殻のうち数量の多い方から完形資料を抽出して、1mm目方眼紙上で殻長の計測を行い、2.5mm階級幅で集計した。なお、1mmメッシュ面上からは陸産微小貝類も少量抽出されているが、今回は分析対象から除外した。

#### 同定結果と組成・サイズの特徴

腹足綱（巻貝）6種・二枚貝綱5種の計11種の貝類が同定された。ほぼ東京湾内湾の砂泥底干潟に普通に生息する貝種によって構成されるが、淡水産のマルタニシを含むのが大きな特徴である。市内では弥生時代後期以降の貝層から含まれるようになることが明らかになっており、マルタニシの生態から、水田稲作との関連が想定される。イボキサゴ・シオフキガイ・アサリ・ハマグリの出土量が圧倒的に多く、これら4種を対象とした採貝活動が想定される。本遺跡と同じく養老川右岸に位置し、古墳時代前期に形成された御林跡遺跡の住居内貝層においてもほぼ同様の傾向が認められる（鶴岡2008）ことから、分析事例は少ないものの、この時期の特徴と捉えることもできよう。

ハマグリ・シオフキガイ・アサリの殻長平均値は、それぞれ51.94mm・47.52mm・45.61mmであった。なお、前述の御林跡遺跡の事例では、それぞれ67.00mm・46.35mm・42.18mmを測り、ハマグリの大きさに開きがあるが、これは計測資料数が少ないことによる。ハマグリに関しては、両遺跡ともに計測値のばらつきが大きいことから、採取時におけるサイズの選択性は働いていなかったものと考えられる。

#### 【参考文献】

鶴岡英一 2008 「4 御林跡遺跡出土の貝類遺体について」『市原市御林跡遺跡Ⅱ』市原市教育委員会

第3表 貝類出土量集計

遺構No.	遺構種	時期	A	B	C	D	E	F
			水洗前重量 (g)	水洗後重量 (g)	土壌重量 (g) A-B	貝層混土率 (%) C÷A	集計貝重量 (g)	貝殻遺存率 (%) E÷B
38号	竪穴住居跡	古墳前期	30,250	8,507	21,743	71.9%	6,392	75.1%

腹足綱						二枚貝綱					合計 (NISP)				
イボキサゴ	マルタニシ	ウミニナ	ツメタガイ	アカニシ	アラムシロ	シオフキガイ	マテガイ	カガミガイ	アサリ	ハマグリ					
L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L		R			
514	16	6	5	30	4	97	98	1	12	16	292	301	93	85	1,084
47.4%	1.5%	0.6%	0.5%	2.8%	0.4%	9.0%	0.1%	1.5%	27.8%	8.6%	100.0%				

第4表 主要二枚貝類殻長計測値集計

殻長 (mm)	シオフキガイ		アサリ		ハマグリ	
	N	%	N	%	N	%
-32.5						
-35.0			1	0.5		
-37.5	2	4.5	2	1.0		
-40.0	2	4.5	15	7.4		
-42.5	2	4.5	31	15.3	1	5.9
-45.0	6	13.6	49	24.3	4	23.5
-47.5	8	18.2	41	20.3	2	11.8
-50.0	9	20.5	36	17.8	2	11.8
-52.5	13	29.5	20	9.9	1	5.9
-55.0	1	2.3	7	3.5	1	5.9
-57.5	1	2.3			2	11.8
-60.0					1	5.9
-62.5						
-65.0					1	5.9
-67.5					2	11.8
-70.0						
合計	44	100.0	202	100.0	17	100.0
平均 (mm)	47.52		平均 (mm)	45.61	平均 (mm)	51.94
標準偏差	4.50		標準偏差	4.00	標準偏差	8.05



## IV ま と め

最後に稲荷台遺跡L 8地点の整理を振り返って気づいたことをまとめておきたい。

確実な縄文時代の遺構は検出されなかったが、出土遺物から縄文時代の可能性がある土坑2基が検出された。検出された19点の縄文土器の内訳は、早期条痕文系土器が5点、中期が1点、後期が10点、残りは明確な時期不詳の縄文土器である。

弥生時代は総数9基の遺構が検出された。後期から終末期にかけての遺物が主体である。中でも32号遺構出土の弥生小型広口壺には、当域ではまれな、口縁部から頸部にかけて植物の「オオバコ」を回転した疑縄文が施されていることが特筆される。

古墳時代は、前期から中期にかけて4軒の竪穴住居跡が検出されている。稲荷台遺跡では、これまで古墳時代中期和泉式期の遺構については明確ではなかったが、稲荷台1号墳築造直前の竪穴住居跡の検出は、当時の周辺状況を観察するうえで大きな成果であったと思われる。

平安時代には、9世紀末葉から10世紀にかけての時期を主体とした8軒の竪穴住居跡が検出された。遺構数は多くはないが、出土遺物の内容から、今回報告の中心的な遺構と遺物である。土器器坏の中には、2次過熱を受けた発泡土器や、墨書土器などが検出されており、中でも「二」と記載された墨書土器は4点の検出を見る。これは、稲荷台遺跡本体のE地点では確認されなかった墨書土器の新資料であり、墨書「二」に込められた正確な意味については、今後の研究課題である。また、30号遺構の銅製帯金具の裏当金は、周辺に存在した律令制地方官人を思わせる出土遺物であり、当時の稲荷台遺跡を考えるうえで重要な遺物の一つと想定される。

溝は3条検出された。25号溝は、出土遺物から平安時代の溝と想定される。また、37号溝は、出土した常滑片口鉢やカワラケなどから、当溝が中世までさかのぼる溝であることが確認できる。この他、6号溝は覆土に宝永火山灰を含んでいることから、時期的には近世溝と判断されよう。

今回の整理作業により、稲荷台遺跡への新たな資料が追加されることとなった。周辺地区は近年急速な宅地化が進んでおり、その都度、調査資料も蓄積されつつある。しかし、国府関連遺跡の一つと想定される稲荷台遺跡の本来の性格については、いまだ不明な点も多く、確信的なところに至っていないのが現状である。

稲荷台遺跡については、今後、本来の性格について十分吟味できるよう資料の蓄積を重ねたうえで、再検討する必要があると判断される。

第5表 稻荷台遺跡L8地点出土土器観察表

新遺構 番号	遺物 番号	旧遺構 番号	実測 番号	器種・遺存度	出土位置 cm	法量(推定) cm		(外)色調 (内)色調	焼成	胎土	特徴	備考
						口径	高さ					
1	1	2	15	土師器甕 口縁1/4	カマド付近? 床+5.7	(19.6)		5YR4/6赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	外 内	口縁部ナズ、胴部ヘラケズリ。 口縁部ナズ、胴部ヘラナズ。	内面 器面剥離激しい。
1	2	2	1	土師器杯 完形	カマド付近? 床+15.7	10.5	4.0	7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/6暗赤褐色	良好	外 内	ロクロ整形、底部回転糸切り後円周の一部ナズ。 ロクロ整形。	内面口唇部から体部にかけて油 煙痕あり。
1	3	2	2	土師器杯 完形	カマド付近? 床+10.7	10.9	4.3	7.5YR5/6明褐色 7.5YR6/6暗色	良好	外 内	ロクロ整形、底部回転糸切り後底部外周を一部ナズ。 ロクロ整形、見込みから体部にかけて一部指ナズ。	底部外面に糸切り後の削りかす 付着のまま焼成。
1	4	2	3	土師器杯 口縁1/8~底部1/2弱	床直 -0.3	(11.6)	(6.2)	5YR5/6明赤褐色 5YR5/6暗赤褐色	良好	外 内	ロクロ整形後体部下端一部ナズ。 ロクロ整形。	
1	5	2	18	土師器杯 口縁1/10~底部1/3	床 +10.6	(10.0)	(5.0)	5YR5/6明赤褐色 7.5YR6/6暗色	良好	外 内	ロクロ整形。 ロクロ整形。	
1	6	2	16	土師器杯 口縁~底部1/2	カマド付近? 床+9.9	(10.2)	(5.0)	5YR6/8暗色 5YR6/8暗色	良好	外 内	ロクロ整形。 ロクロ整形。	底部外面に糸切り後に付着した 粘土粒付着のまま焼成。内外面、 器面摩擦激しい。
1	7	2	17	土師器杯 口縁~底部1/6	カマド付近? 床+14.2	(10.0)	(6.8)	5YR4/4にぶい赤褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	良好	外 内	ロクロ整形。 ロクロ整形。	底部外面回転糸切り、未調整。
1	8	2	6	土師器杯 口縁1/10	一拵	(10.2)		7.5YR6/6暗色 7.5YR6/6暗色	良好	外	ロクロ整形。	
1	9	2	7	土師器杯 口縁1/10	一拵	(11.8)		7.5YR6/6暗色 7.5YR6/6暗色	良好	外 内	ロクロ整形。 ロクロ整形。	
1	10	2	4	土師器高台付杯 口縁1/6	カマド付近? 床+7.3	(15.6)		5YR4/6赤褐色 5YR5/6暗赤褐色	良好	外 内	ロクロ整形後一部ナズ。 ロクロ整形。	器形から高台が付くものと想定 される。
2	1	8	1	土師器甕 口縁1/2強	床 +10.0~+24.6	23.6		5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	外 内	口縁部ナズ、胴部ヘラケズリ。 口唇部ナズ、胴部ヘラナズ。	内面器面摩擦、輪痕あり。 カマド、P2付近?
2	2	8	2	土師器甕 口縁1/2弱	床直 +4.8~+7.3	(21.4)		5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	外 内	口縁部ナズ、胴部ヘラケズリ。 口唇部ナズ、胴部ヘラナズ。	
2	3	8	5	土師器杯 底部2/3強	床 +21.6	(6.8)		5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	外 内	ロクロ整形、底部回転糸切り。 ロクロ整形。	
2	4	8	3	土師器杯 底部の一部欠	一拵	5.0		2.5YR5/8明赤褐色 2.5YR5/8明赤褐色	良好	外 内	ロクロ整形、底部回転糸切り。 ロクロ整形。	
3	1	1	1	土師器甕 口縁1/4~胴部1/2	撥乱一拵	(14.0)	7.4 (30.1)	7.5YR3/2黒褐色 7.5YR3/4暗褐色	良好	外 内	ハケ後ヘラナズ。底部付近ハケ。 口縁部付近ハケ後ヘラナズ、胴部ヘラナズ。	同一個体の底部完存するが、接 合に至らない。
3	2	1	9	土師器埴 口縁1/4	床 +7.2~+24.9	(13.4)		5YR4/6赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	外 内	ハケ後ヘラナズ。 ヘラナズ。	外面器面摩擦。
3	3	1	4	土師器甕 胴部1/3~底部完存	床直 -3.8~+3.7	3.6		5YR4/6赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	外 内	ヘラナズ。 ヘラナズ。	底部に径1.4cm程の穿孔。
3	4	1	11	土師器埴 口縁1/4	床 +23.5~+26.3	(11.0)		7.5YR4/6褐色 7.5YR4/6褐色	良好	外 内	ナズ。 ナズ。	内外面とも光沢が出るほどの丁 撃ナズ。
3	5	1	10	カワラケ 口縁1/10~底部完存	遺構外側露面 +1.1	(11.0)	5.6	5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	外 内	ロクロ整形、底部回転糸切り痕。 ロクロ整形、見込みにナズ。	底部に切り離し後の粘土粒付着 のまま焼成。
3	6	1	8	土師器高杯 杯部1/3強	撥乱一拵	(17.8)		5YR4/8赤褐色 5YR4/8赤褐色	良好	外 内	ヘラナズ。 器面剥離。	
3	7	1	5	土師器高杯 口縁1/4~杯部2/3	床直 +1.3~+17.0	(16.8)		2.5YR4/6赤褐色 2.5YR4/6赤褐色	良好	外 内	ヘラナズ後ナズ。 ヘラナズ後ナズ。	内外面赤彩。
3	8	1	7	土師器高杯 杯部1/3強	撥乱一拵	(17.0)		5YR4/6赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	外 内	ヘラナズ。 ヘラナズ、一部器面剥離。	胎土は鉄分を多く含む赤みを帯 びる。
3	9	1	2	土師器高杯 杯部全欠~杯部1/2欠	撥乱一拵	13.8		7.5YR4/3褐色 7.5YR4/3褐色	良好	外 内	粗いヘラナズ。 粗いヘラナズ。	
3	10	1	6	土師器高杯 杯部全欠	床 +20.1	10.2		7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	外 内	ヘラナズ。 ヘラナズ。	

新遺構 番号	遺物 番号	旧遺構 番号	実測 番号	器種・遺存度	出土位置 cm	法量(推定)		(外)色調		焼成	胎土	特徴	備考
						口径	底径	器高	(内)色調				
4	1	6	5	弥生鉢 口縁~体部1/4 以下	床 +19.9	(17.5)		7.5YR6/4にぶい褐色~2.5YR4/6赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外 口縁部細縄文、2段の羽状縄文、口縁部下端口縁部原体押捺、他ヘラミガキ。 内 ヘラミガキ。	内外面施文以外赤彩。	
4	2	6	1	弥生壺	+15.1			7.5YR 6/6褐色~10R5/6赤色 7.5YR6/6褐色	良好	1mmの白色 粒含む	外 沈線区画の上位に細縄文、他ヘラミガキ。 内 ヘラナナ。	遺物高は、P3底面より。 外面赤彩。	
4	3	6	4	弥生鉢	一括			7.5YR6/4にぶい褐色~10R5/6赤色 7.5YR6/6褐色	良好	1mmの白色 粒含む	外 口縁部原体押捺、ヘラミガキ。 内 ヘラナナ。	外面赤彩。	
4	4	6	2	弥生壺	一括			10YR6/4にぶい黄褐色~2.5YR4/6赤褐色 10YR5/2灰黄褐色	良好	1mmの白色 粒含む	外 S字状結節文の低位にヘラミガキ。 内 ヘラナナ。	外面赤彩。	
5	1	21	1	弥生鉢	一括			5YR4/3にぶい赤褐色~10R5/6赤色 10R4/6赤色	良好	密	外 口縁部細縄文施文後、細縄文の原体押捺、口縁部細縄文施文後、細縄文の 網目状の原体押捺、S字状結節文、U字型竹管による刺突文、ヘラミガキ。 内 ヘラミガキ。	外面赤彩。	
9	1	17 P6	1	弥生壺	一括			7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色	良好	密	外 折返し口縁下部原体押捺、口唇部細縄文施文後、細縄文網目状の原体押捺、 1段の輪帯痕。 内 ヘラナナ。		
9	2	17 P6	2	弥生甕	一括			5YR6/6褐色 5YR6/6褐色	良好	密	外 口唇部指頭押捺淡縄文、ヘラナナ。 内 折返し口縁下部原体押捺、ヘラナナ。		
11	1	17 P4	1	須置器蓋 底部1/2	+5.2			2.5Y6/3にぶい黄色 2.5Y6/3にぶい黄色	良好	密	外 ロクロ整形、体部下端回転ヘラケケズリ。 内 ロクロ整形。	体部外面高台が外れた痕跡が残 る。 遺物高は、ピット底面より。	
11	2	17 P4	2	土師器環 底部完存	+6.1	(11.2)		5YR4/6赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外 ロクロ整形、底部回転糸切り後指ナデ。 内 ロクロ整形。	遺物高は、ピット底面より。	
11	3	17 P4	3	土師器環 底部1/5	+20.2	(6.2)		7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR12/1黒色	良好	密	外 ロクロ整形、底部付近手持ちヘラケケズリ、底部回転糸切り後ヘラケケズリ。 内 ロクロ整形、手持ちヘラミガキ。	遺物高は、ピット底面より。 内 黒色処理。	
15	1	4	1	弥生甕 口縁~頸部1/3	-3.8	(22.7)		7.5YR5/6明褐色 7.5YR6/6褐色	良好	1mmの白色 粒含む	外 口縁部指頭押捺淡縄文、頸部1段の輪帯、原体押捺、ヘラナナ。 内 2段のS字状結節文と細縄文、ヘラナナ。	遺物高は、火床底面より。	
15	2	4	7	弥生壺 頸部	床直 +3.1			7.5YR6/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	良好	密	外 ヘラナナ。 内 ヘラナナ。		
15	3	4	2	弥生壺 底部1/3	床 +49.1	(4.8)		5YR5/6明赤褐色 5YR4/2灰褐色	良好	密	外 ヘラナナ。 内 ヘラナナ。		
15	4	4	3	弥生壺	一括			7.5YR6/6褐色~2.5YR4/6赤褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	良好	1mmの白色 粒含む	外 沈線区画内細縄文、他ヘラミガキ。 内 ヘラナナ。	外面赤彩。	
15	5	4	4	弥生壺	一括			7.5YR4/1褐灰色~10YR5/3にぶい黄褐色 10YR6/6明黄褐色	良好	1mmの白色 粒含む	外 沈線区画の低位羽状縄文、他ヘラミガキ。 内 ヘラナナ。	外面赤彩。	
15	6	4	5	弥生壺	一括			7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外 S字状結節文の低位に細縄文。 内 ヘラナナ。		
16	1	7	2	土師器埴 口縁1/10~胴部1/5	床直 -4.4	(10.6)		5YR4/6赤褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外 口縁部ナデ、胴部ハケ後ヘラナナ。 内 口縁部ハケ後ナデ、胴部ヘラナナ後ナデ。		
16	2	7	6	土師器埴 口縁1/4弱	一括			2.5YR5/6明赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外 口縁部ハケ後ヘラミガキ。 内 胴部ヘラナナ。		
16	3	7	3	土師器埴 胴部1/2弱	床 +9.6~+27.8			7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外 胴部ハケ。 内 胴部ヘラナナ。		
16	4	7	4	土師器鉢 口縁の一部欠	床 +7.4	9.2	3.6	2.5YR4/8赤褐色 2.5YR4/8赤褐色	良好	密	外 口縁部ナデ、体部ヘラナナ。 内 口縁部ナデ、体部ヘラナナ。	内外面赤彩。	
16	5	7	7	土師器鉢 口唇部の一部欠	床 +16.6	5.6	2.4	5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外 口縁部ナデ、体部ヘラナナ後指ナデ。 内 口唇部ナデ、体部ヘラナナ。	ミニチュア。	
16	6	7	5	土師器鉢 口縁1/4	床 +8.8	(18.8)		7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外 口縁部ナデ、体部ヘラナナ。 内 口唇部ナデ、体部ヘラナナ。		
16	7	7	1	土師器鉢 口縁・体部の一部欠	床直 +2.9	15.3	2.2	2.5YR5/6明赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	良好	密	外 口縁部ナデ、体部ヘラナナ後ナデ。 内 口縁部ナデ、体部ヘラナナ後ナデ。	内外面赤彩。	



新遺構 番号	遺物 番号	日遺構 番号	実測 番号	器種・遺存度	出土位置 cm	法量(推定) cm		(外)色調		焼成	胎土	特徴	備考
						口径	底径	器高	(内)色調				
24	3	10	3	土師器埴 底部完存～全体1/3	床 +19.3～+25.7	(13.0)	3.0	(17.0)	5YR4/6赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	口縁部ヘラミガキ 胴部上位ヘラミガキ下位ヘラナデ。 口縁部ヘラミガキ、胴部ヘラナデ。	復元集測。
24	4	10	4	土師器鉢 口縁の一部欠	床直 +2.4～+15.0	11.6	4.0	6.0	5YR6/6橙褐色 5YR6/6橙褐色	良好	密	ヘラナデ。 内ヘラナデ。	
24	5	10	10	瀬戸美濃系灰釉灯明皿 全体の1/4	一拵	(7.4)	(2.9)	1.6	10YR8/2灰白色～2.5Y7/4浅黄色 2.5Y7/4浅黄色	良好	密	口縁部造軸。 内全面施釉。	近世陶器。
25	1	13	1	土師器高台付杯 杯部完存 高台部全欠	+14.7	13.8	(8.0)	(5.0)	5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外口縁部造軸。後高台貼り付け。 内口縁部造軸。	遺物高は、溝底より。
25	2	13	3	土師器杯 口縁の1/8	+18.2	(10.8)			5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外口縁部造軸。 内口縁部造軸。	遺物高は、溝底より。
25	3	13	2	土師器高台付杯 高台部1/3～底部1/2強	+5.9	(7.2)			7.5YR4/4褐色 7.5YR6/6橙褐色	良好	密	外口縁部造軸。高台貼り付け。 内口縁部造軸。	遺物高は、溝底より。
26	1	15	2	弥生甕	床 +12.5～+15.1	(11.0)			5YR5/4にふい赤褐色 5YR5/4にふい赤褐色	良好	密	外口唇部指頭捺捺状文、胴部ヘラナデ。 口縁部ヘラミガキ、胴部ヘラナデ。	内外器面剥離と摩耗あり。
26	2	15	4	弥生甕	床 +13.3				7.5YR3/1黒褐色～5YR5/6明赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外口唇部キザミ目他ハケ。 内ヘラナデ。	3と同一個体。
26	3	15	3	弥生甕	床 +13.0～+15.2				7.5YR3/1黒褐色～5YR5/6明赤褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外口唇部造軸。 内ヘラナデ。	2と同一個体。
27	1	12(B)	1	土師器杯 全体の1/2強	床直 -0.5	14.3	6.7	4.5	2.5YR6/8橙褐色～2.5YR4/1赤灰色 2.5YR6/8橙褐色～2.5YR4/1赤灰色	良好	密	外口唇部造軸。体部下端～底部手持ちヘラケズリ、底部回転系切り。 内口唇部造軸。	底部外面から体部にかけて薬付着。
27	2	12(B)	2	土師器杯 口縁1/8	床直 -3.0	(14.6)			7.5YR6/6橙褐色 7.5YR2/1黒色	良好	密	外口唇部造軸。体部下端～底部手持ちヘラケズリ。 内口唇部造軸。	内面黒色処理。
28	1	12(A)	1	土師器杯 口縁1/4～底部完存	床直 -0.3	15.6	6.8	4.9	7.5YR5/6明赤褐色 7.5YR2/1黒色	良好	密	外口唇部造軸。体部下端～底部回転ヘラケズリ。 内口唇部造軸。体部下端～底部手持ちヘラミガキ。	内面黒色処理。
28	2	12(A)	3	土師器杯 口縁1/4～底部完存	床 +6.4～+13.4	12.4	6.4	5.1	5YR6/8橙褐色 5YR6/8橙褐色	良好	密	外口唇部造軸。底部回転系切り。 内口唇部造軸。	体部外面墨書『二』。
28	3	12(A)	5	土師器杯 全体の1/2強、底部完存	床 +19.5	13.8	6.8	4.9	5YR6/6橙褐色 5YR6/6橙褐色	良好	密	外口唇部造軸。底部回転系切り。 内口唇部造軸。	
28	4	12(A)	2	土師器杯 口縁1/4～底部2/3	床直 -1.8	(15.8)	7.5	5.2	7.5YR6/6橙褐色 7.5YR6/6橙褐色	良好	密	外口唇部造軸。体部下端～底部手持ちヘラケズリ、底部回転系切り。 内口唇部造軸。	体部外面墨書『二』。
28	5	12(A)	7	土師器杯 口縁1/8～底部1/2弱	床 -23.7～-21.5	(16.2)	(6.4)	6.7	7.5YR5/4にふい褐色 7.5YR4/3褐色	良好	密	外口唇部造軸。体部下端～底部手持ちヘラケズリ。 内口唇部造軸。体部下端～底部手持ちヘラミガキ。	P1内。
28	6	12(A)	8	土師器杯 全体の1/3強	床直 +3.0～+9.2	(13.2)	(6.6)	4.0	7.5YR6/4にふい橙褐色 7.5YR6/4にふい橙褐色	良好	密	外口唇部造軸。底部回転系切り。 内口唇部造軸。	カマド内。
28	7	12(A)	6	土師器杯 口縁1/10～底部1/3強	床 +7.3～+9.9	(13.4)	(7.4)	4.4	5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外口唇部造軸。底部回転系切り。 内口唇部造軸。	カマド内。
28	8	12(A)	12	土師器杯 口縁1/8	床 +8.5	(14.2)	(7.2)	5.1	10YR6/6明黄褐色 10YR2/1黒色	良好	密	外口唇部造軸。体部下端～底部手持ちヘラケズリ。 内口唇部造軸。体部下端～底部手持ちヘラミガキ。	内面黒色処理。
28	9	12(A)	21	土師器杯 口縁1/8	床 +6.0	(12.8)			5YR6/6橙褐色 5YR4/6赤褐色	良好	砂流多	外口唇部造軸。 内口唇部造軸。	
28	10	12(A)	14	土師器杯 口縁1/8	床 +10.3	(15.0)	(7.0)	2.9	5YR4/6赤褐色 5YR4/6赤褐色	良好	密	外口唇部造軸。体部下端～底部手持ちヘラケズリ。 内口唇部造軸。体部下端～底部手持ちヘラミガキ。	
28	11	12(A)	17	土師器杯 口縁1/8	床直 -0.8	(15.0)			5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外口唇部造軸。 内口唇部造軸。	
28	12	12(A)	15	土師器杯 底部1/2弱	床直 +2.2	(6.8)			10YR6/4にふい黄褐色 10YR6/4にふい黄褐色	良好	密	外口唇部造軸。底部回転系切り。 内口唇部造軸。	
28	13	12(A)	16	土師器杯 底部1/3	床直 -4.2			(7.2)	5YR6/6橙褐色 5YR6/6橙褐色	良好	密	外口唇部造軸。体部下端～底部手持ちヘラケズリ。 内口唇部造軸。	



新遺構 番号	遺物 番号	旧遺構 番号	実測 番号	器種・遺存度	出土位置 cm	法量(推定)		(外)色調 (内)色調	焼成	胎土	特徴	備考	
						口径	高さ						
30	2	14	2	土師器環 口縁1/3次	床 +10.8~+18.8	14.6	7.0	7.5YR6/6褐色 7.5YR21/黒色	良好	密	外 内 外 内 外 内	内面黒色処理。 外面黒書「二」。 内面に油漉付着。 内面黒色処理。	
30	3	14	6	土師器環 口縁1/2強~底部完存	床 +14.1~+16.9	11.4	5.8	7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外 内 外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	4	14	3	土師器環 口縁1/4次	床 +9.7~+16.7	13.2	5.6	7.5YR6/6褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	5	14	5	土師器環 口縁1/4	床 +9.5~+24.0	(19.8)	(9.8)	10YR8/3にぶい黄褐色 10YR2/黒色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	6	14	7	土師器環 口縁1/2弱~底部完存	床直 +2.4~+6.2	(12.4)	6.4	5YR6/6褐色 5YR6/6褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	7	14	1	土師器環 完形	床 +10.8	14.4	7.4	7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	8	12(B)	47	土師器環 口縁の1/8~底部1/3	床 +14.5	(13.4)	(7.0)	5YR6/6褐色 5YR6/6褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	9	14	4	土師器皿 口縁1/3次	床 +14.3~+16.8	13.4	5.4	2.5YR6/8褐色 2.5YR6/8褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	10	12(B)	48	土師器環 口縁の1/8~底部1/2弱	床 +10.2	(12.0)	(6.4)	7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	11	14	15	土師器皿 口縁1/8~底部1/2弱	一拵	(14.0)	(6.8)	10YR6/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	12	14	13	土師器環 口縁1/8~底部弱一部	床 +6.4~+14.5	(13.8)	(7.6)	7.5YR5/6明褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	13	27	46	土師器環 口縁1/8~底部5/6	床 -6.3~+7.0	(12.2)	7.4	2.5Y6/4にぶい黄色~N4/0灰色 N4/0灰色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	14	27	44	土師器皿 口縁1/4~底部1/6	一拵	(13.4)	(6.2)	5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	15	14	11	土師器環 口縁1/4	床 +5.1	(14.6)		7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	16	14	9	土師器環 口縁1/4	床直 +2.9	(13.8)		7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	17	14	25	灰輪長頸壺 底部完存	床 +18.1	8.4		5Y7/1灰白色 5Y7/1灰白色~7.5Y6/2灰オリーブ色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	18	14	26	土師器環 底部5/6	カマド内 床+17.8	6.6		7.5YR5/6明褐色~N4/0灰色 7.5YR5/6明褐色~N4/0灰色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	19	14	12	土師器環 底部1/2	床 +22.4	7.2		10YR6/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	20	12(B)	51	須置器長頸壺 底部1/2強	床 +17.6	9.4		2.5Y5/2暗灰黄色 2.5Y5/2暗灰黄色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	21	14	14	土師器環 底部ほぼ完存	床 +22.1	7.0		7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	22	14	24	灰輪筒 底部完存	床 +7.5	6.7		2.5Y7/1灰白色 2.5Y7/1灰白色~7.5Y6/2オリーブ灰色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	23	12(B)	49	土師器皿状環 底部完存	床直 +1.4~+18.5	5.4		5YR6/8褐色 5YR6/8褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
30	25	14	23	土師器環 底部弱一部	一拵			10YR6/4にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。	
31	1	33	1	土師器環 口縁の1/2強~底部完存	レベル数値なし	14.0	7.0	3.6	5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	密	外 内	土器が歪み口縁部が楕円形を呈する。 底面外面に判読不明墨書文字あり。

新遺構 番号	遺物 番号	日遺構 番号	実測 番号	器種・遺存度	出土位置 cm	法量(推定)		(外)色調 (内)色調		焼成	胎土	特徴	備考	
						口径	底径	器高	底径					
31	2	33	3	土師器Ⅷ 口縁の1/8	一括	(13.6)	(6.6)	2.3	5YR6/8褐色 5YR6/8褐色	良好	密	外 内	ロクロ整形、 底部回転系切り。	
31	3	33	2	土師器Ⅷ 口縁の1/8	レベリングなし	(13.0)			5YR3/4暗赤褐色 5YR3/4暗赤褐色	不良	粗	外 内	ロクロ整形、 ロクロ整形。	
31	4	33	5	須臾器高台付環 底部の1/5	レベリングなし		(8.0)		N30暗灰色 5YR6/1褐灰色	良好	密	外 内	ロクロ整形後高台貼り付け。 ロクロ整形。	
32	1	34	1	弥生小型広口壺 外形	レベリングなし	8.0	5.4	11.8	7.5YR7/6褐色~10R5/6赤色 7.5YR7/6褐色	良好	密	外 内	口縁部オオハコ回転文による疑縄文、他ヘラナナデ。 ヘラナナデ。	
34	1	22	1	弥生壺	一括				7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色	良好	密	外 内	折返し口縁、 原体押捺後S字状結節文、 下端原体押捺。 ヘラナナデ。	
34	2	22	2	弥生甕	一括				7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色	良好	密	外 内	口唇部指頭押捺波瀾文、 他ヘラナナデ。 口唇部指頭押捺波瀾文、 他ヘラナナデ。	
35	1	23	1	土師器高台付環 底部 1/8以下	一括				10YR5/4にぶい黄褐色 10YR1/71黒色	良好	密	外 内	ヘラナナデ。 ヘラミガキ。	
37	1	16	5	常滑片口鉢Ⅱ類 底部3/4	+4.1		13.0		7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	密	外 内	体部指頭圧痕、 ヘラナナデ。 板状工具でヘラナナデ、 底筋見込みまわり指ナケナズリ。	
37	2	16	3	土師器Ⅷ	一括				7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色	良好	密	外 内	ロクロ整形、 底部回転系切り後手持ちヘラナケナズリ。 ロクロ整形。	
37	3	16	2	土師器Ⅷ	一括				7.5YR6/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	良好	密	外 内	ロクロ整形、 底部回転系切り。 ロクロ整形。	
遺構外	1	全体 一括	17	須臾器蓋 穂一部		(15.2)			2.5Y6/2灰黄色 2.5Y6/2灰黄色	良好	密	外 内	ロクロ整形、 ロクロ整形。	
遺構外	2	全体 一括	9	土師器高台脚 脚部1/6		(11.8)			5YR6/6褐色 5YR6/6褐色	良好	密	外 内	ヘラミガキ。 ヘラナナデ。	
遺構外	3	17	1	土師器高台付環 底部1/2					10YR7/6明黄褐色 10YR7/6明黄褐色	良好	密	外 内	ロクロ整形後高台貼り付け。 ロクロ整形。	
遺構外	4	17	3	土師器Ⅷ 底部1/4弱		(5.2)			5YR6/4にぶい褐色 5YR6/6褐色	良好	密	外 内	ロクロ整形、 底部回転系切り未調整。 ロクロ整形。	
遺構外	5	全体 一括	10	土師器Ⅷ 底部1/3		(6.4)			10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR5/6明褐色	良好	密	外 内	ロクロ整形、 底部回転系切り未調整。 ロクロ整形。	
遺構外	6	17	2	土師器高台付環 底部1/5					7.5YR2/1黒色 7.5YR6/4にぶい褐色	良好	密	外 内	ヘラミガキ。 ロクロ整形。	
遺構外	7	30	12	縄文深鉢 底部完形					10YR6/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	密	外 内	摩耗。 内	内面黒色処理。 早期系縄文系土器。
遺構外	8	17	11	弥生甕					2.5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	1mmの白色 粒含む	外 内	口唇部指頭押捺波瀾、 2段以上の輪積。 ヘラナナデ。	
遺構外	9	30	13	縄文深鉢 早期系縄文系土器					7.5YR6/6褐色 2.5Y7/4黄褐色	良好	繊維含む	外 内	糸痕文。 糸痕文。	
遺構外	10	30	15	縄文深鉢 早期系縄文系土器					10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	繊維含む	外 内	糸痕文。 糸痕文。	
遺構外	11	30	14	縄文深鉢 早期系縄文系土器					5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	良好	繊維含む	外 内	コンパス文。 無文。 縄文前閉。	

第6表 稻荷台遺跡L8地点出土石器等観察表

新遺構 番号	遺物 番号	旧遺構 番号	実測 番号	種別 依存度	出土位置 cm	色調	法量(推定) cm/g			備考	
							長さ (径)	幅 (孔)	厚さ (高さ)		重量
3	11	1	22	摩石	攪乱一拵	外周 2.5Y6/2灰黄色 使用面 7.5Y7/1灰白色	5.50	4.70	2.90	120.0	砂岩。
15	7	4	6	磨製石斧、ほぼ完存	床直+3.1	外周 5GY5/1オリーブ灰色	10.00	2.55	2.55	160.3	
20	13	9	13	燧石	床直+2.8	外周 10YR6/2灰黄褐色	11.40	7.00	5.60	447.8	
29	24	19	33	磨石	床直+1.0	外周 5Y4/1灰色 変色面 2.5Y4/3オリーブ褐色	8.70	7.50	4.30	448.5	中央部分が円形に変色するほどよく磨り込まれている。被熱痕あり。カマド内。
30	26	14	37	砥石	一拵	外周 5X8/2灰白色	2.60	2.60	1.10	12.3	径8ミリ程の貫通しない円孔が認められる。
遺構外	12	全体一拵	19	砥石	一拵	外周 7.5YR5/4にふいふ褐色 ~7.5YR7/4にふいふ褐色	10.00	4.10	1.50	87.6	石切りの跡残る。
遺構外	13	30	18	砥石	一拵	外周 2.5Y6/3にふいふ黄色	3.00	2.80	1.45	24.7	
遺構外	15	30	20	スクレイパー	一拵	外周 10Y2/1黒色	6.20	4.65	0.95	27.7	

第7表 稻荷台遺跡L8地点出土金属器等観察表

新遺構 番号	遺物 番号	旧遺構 番号	実測 番号	種別 依存度	出土位置 cm	色調	法量(推定) cm/g			備考	
							長さ (径)	幅 (孔)	厚さ (高さ)		重量
20	12	9	14	用途不明鉄器	床+10.4	5XR4/3にふいふ赤褐色	2.90	1.90	0.10	2.50	先端部1cm程を折り返している。
30	27	14	36	梳型鉄滓	床+20.3	5XR4/3にふいふ赤褐色	11.80	10.30	3.70	634.90	地金の依存良好。
30	28	14	31	鑿状工具(茎)	床+14.7	5XR4/3にふいふ赤褐色	残長10.5	0.3~0.5	0.30	7.20	
30	29-A	14	27	用途不明鉄器	一拵	5XR4/3にふいふ赤褐色	11.50	2.60	0.5~0.6	47.40	29-Bと一対。
30	29-B	14	27	用途不明鉄器	一拵	5XR4/3にふいふ赤褐色	4.70	1.60	0.80		29-Aと一対。
30	30	14	30	銅製押金具 (葉当金)	一拵	5Y5/2灰オリーブ色	3.10	2.60	0.10	3.40	4か所に径1mm程の穿孔、基部に脚底で装着。
37	4	16	6	用途不明鉄器	+6.2	5XR4/3にふいふ赤褐色	6.70	1.00	0.40	20.00	遺物高は、薄底より。
遺構外	14	全体一拵	21	小型鎌	一拵	5XR4/3にふいふ赤褐色	残長6.1	残幅2.3	0.20	12.70	両端部欠。

第8表 稻荷台遺跡L8地点出土土製品観察表

新遺構 番号	遺物 番号	旧遺構 番号	実測 番号	種別・遺存度	出土位置 cm	法 量 (推定) cm/g			色調	焼成	胎土	特徴	備考
						高さ (長)	径 (幅)	孔 (厚さ)					
1	11	2	14	平瓦 全体の1/4	床直 -7.4	29.5	11.5	1.9	1048.0	良好	密	凹面布目 凸面縄織き	カマト内、瓦転用支脚。
2	5	8	7	支脚 一部欠	床 +2.3	19.2	8.0	7.6	981.0	不良	砂粒多	指ナブ指整形	カマト粘土付着のまま焼成。 +21.8cm
2	6	8	6	須恵器 転用砥石	床 +15.0	16.0	10.0	0.9	193.1	良好	密	須恵器片内面を使用	P2内。
16	8	7	24	平瓦 樞一部	床 +34.0	7.6	7.8	2.4	144.0	良好	密	凹面布目 凸面縄織き	
28	15	12(A)	22	軒平瓦 全体の1/3	床 +55.4	25.0	13.7	4.1	1174.4	良好	密	凹面布目 凸面縄織き	
28	16	12(A)	26	平瓦 全体の1/8	床 +9.1	9.0	9.3	2.0	288.8	良好	密	凹面布目 凸面縄織き	
28	17	12(A)	23	平瓦 全体の1/4	床 +6.7	20.0	17.2	2.4	730.7	良好	密	凹面布目 凸面縄織き	カマト内。
28	18	12(A)	24	平瓦 全体の1/3	床直 +0.8	15.4	14.5	2.7	851.4	良好	密	凹面布目 凸面縄織き	カマト内。
28	19	12(A)	25	丸瓦 全体の1/6	床直 +0.9	18.7	7.0	2.0	383.6	良好	砂粒多	凹面布目 凸面縄織き	カマト内、二次過熱を受け器面荒れる。
29	22	19	35	丸瓦(玉縁) 全体の1/2弱	床直 -0.6~+17.0	22.0	13.8	2.0	590.4	良好	密	凹面布目 凸面無紋	カマト内。
29	23	19	34	丸瓦(玉縁) 玉縁の1/3	床直 +4.3~+12.0	6.1	11.6	3.0	201.3	良好	密	凹面布目 凸面無紋	カマト内。
30	24	12(B)	50	輪羽口 先端部の一部	床 +22.0	5.0	5.0	1.5	64.1	不良	砂粒多	外面鉄分が溶洩して付着 内面被熱を受け赤色化する	
30	31	14	42	平瓦 全体の1/8	床 +22.2	8.0	12.0	2.7	311.0	良好	密	凹面布目 凸面縄織き	
30	32	14	40	平瓦 全体の1/4	床直 +1.1~+16.3	18.6	12.6	2.4	692.8	良好	密	凹面布目 凸面縄織き	
30	33	14	39	平瓦 全体の1/3	床直 +3.7~+22.2	28.8	10.1	2.4	918.8	良好	密	凹面布目 凸面縄織き	二次過熱を受ける。 二次加工の面取りあり。カマト内。
31	5	33	10	丸瓦(行基) 全体の1/8	床直	11.7	9.6	1.8	201.3	良好	密	凹面布目 凸面無紋	
31	6	33	8	丸瓦(行基) 全体の1/6	レベル数値なし	11.9	11.8	2.0	403.2	良好	密	凹面布目 凸面無紋、器面剥離が激しい	
35	2	23	2	平瓦 全体の1/10	床 +44.5	8.0	7.9	2.4	178.1	良好	密	凹面布目 凸面縄織き	





調査前(南より)



調査前(北より)



調査前北側斜面



表土除去



遺構検出



遺構



1号遺構全景



1・2号遺構粘土検出状況(西より)



1号遺構カマド遺物



1号遺構カマド内瓦転用支脚出土状況



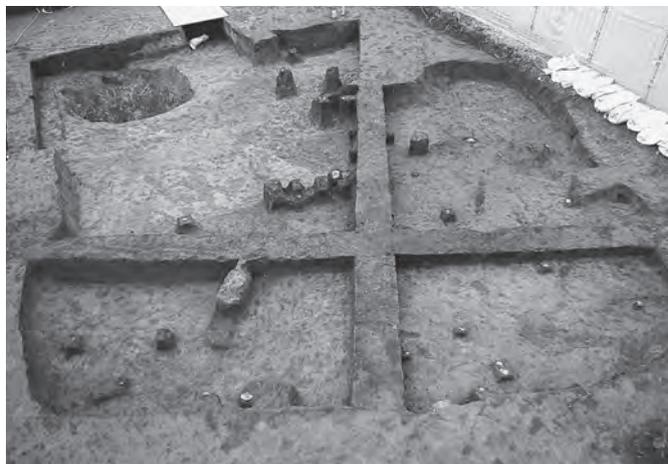
2号遺構全景



2号遺構支脚出土状況



2号遺構土層断面



3・4号遺構遺物検出状況



3・4号遺構全景



5号遺構焼土検出状況



5号遺構全景(南より)



7~14号遺構pit群



8号遺構



9号遺構



15号遺構調査風景



15号遺構全景



16号遺構焼土検出状況



16号遺構調査状況



17号遺構全景



18号遺構全景



19号遺構全景



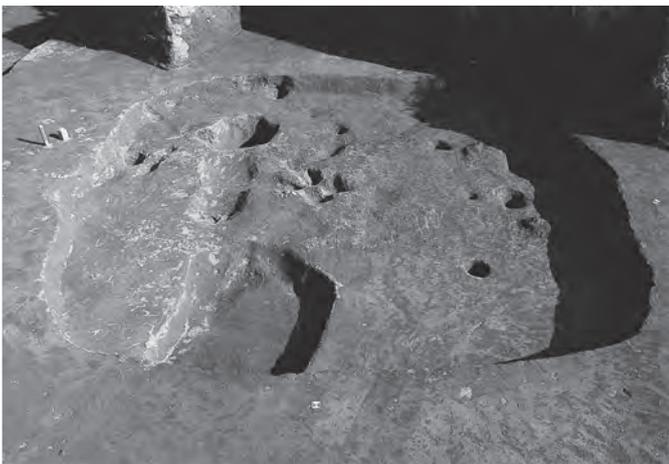
20号遺構遺物出土状況1



20号遺構遺物出土状況2



20号遺構遺物出土状況3



20号遺構全景



21号遺構土坑全景



22号遺構焼土検出状況



22号遺構全景



23号遺構全景



24・25号遺構検出状況



24・25号遺構全景



26～30号遺構全景



26号遺構貯蔵穴



28号遺構遺物出土状況



28号遺構土層断面



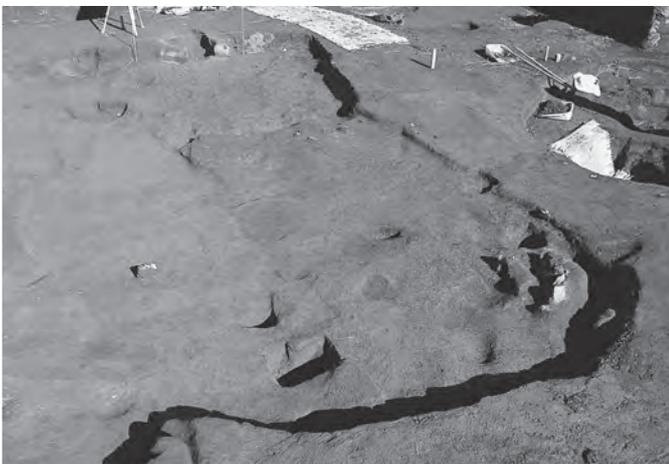
28号遺構全景



29号遺構周辺調査状況



29号遺構カマド検出状況



29号遺構全景



29号遺構貯蔵穴遺物出土状況



29号遺構貯蔵穴完掘状況



30号遺構遺物出土状況



30号遺構全景



30号遺構カマド



30号遺構完掘状況



30号遺構カマド完掘状況



31・32号遺構全景



31号遺構カマド全景



32号遺構全景



33号遺構全景



34号遺構全景



35号遺構全景



36号遺構半裁状況



37号遺構遺物出土状況



37号遺構土層断面



埋戻し状況1



埋戻し状況2



調査完了



1号遺構-2



1号遺構-3



1号遺構-4



1号遺構-5



1号遺構-6



1号遺構-7



2号遺構-1



2号遺構-2



3号遺構-2



3号遺構-3



3号遺構-4



3号遺構-5



3号遺構-6



3号遺構-7



3号遺構-8



3号遺構-9



3号遺構-10



11号遺構-1



11号遺構-2



11号遺構-3



15号遺構-1



15号遺構-2



15号遺構-3



16号遺構-1



16号遺構-3



16号遺構-4



16号遺構-5



16号遺構-7



18号遺構-1



20号遺構-1



20号遺構-2



20号遺構-3



20号遺構-4



20号遺構-5



24号遺構-2



24号遺構-4



25号遺構-1



25号遺構-3



26号遺構-1



27号遺構-1



28号遺構-1



28号遺構-2



28号遺構-3



28号遺構-4



28号遺構 - 5



28号遺構 - 6



28号遺構 - 7



28号遺構 - 10



28号遺構 - 12



28号遺構 - 13



29号遺構 - 3



29号遺構 - 6



29号遺構 - 8



29号遺構 - 9



29号遺構 - 13



29号遺構 - 14



29号遺構 - 15



29号遺構 - 16



29号遺構 - 17



29号遺構 - 19



29号遺構 - 20



29号遺構 - 21



30号遺構 - 2



30号遺構 - 3



30号遺構 - 4



30号遺構 - 5



30号遺構 - 6



30号遺構 - 7



30号遺構 - 8



30号遺構 - 9



30号遺構 - 10



30号遺構 - 11



30号遺構 - 12



30号遺構 - 13



30号遺構-14



30号遺構-22



35号遺構-1



30号遺構-17



30号遺構-23



37号遺構-1



30号遺構-18



31号遺構-1



遺構外-2



30号遺構-19



31号遺構-4



遺構外-3



30号遺構-20



32号遺構-1



遺構外-5

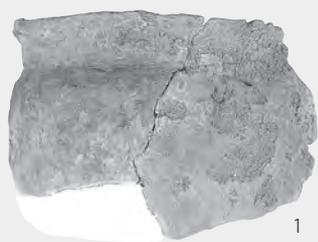


30号遺構-21



遺構外-6

1号遺構



1

2号遺構



8



9



10



3



4

3号遺構



1

4号遺構



1



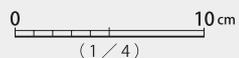
2



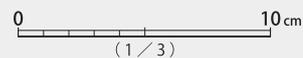
3



4



0 10cm  
(1/4)



0 10cm  
(1/3)

5号遺構



1

9号遺構



1



2

15号遺構



4



5



6

16号遺構



2(1/4)



6(1/4)

21号遺構



1

23号遺構



1

18号遺構



2(1/4)



3



4



5



6



7



8

20号遺構



6



7



8



9



10



11

24号遺構



1(1/4)



3(1/4)

25号遺構



2(1/4)

26号遺構



2

27号遺構



2(1/4)

28号遺構



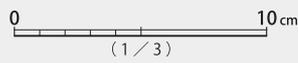
8



9



14



29号遺構



1



2



4



5



7



10



11



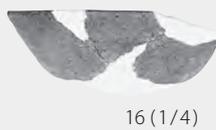
12



18



30号遺構



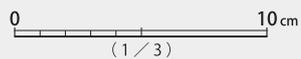
31号遺構



34号遺構



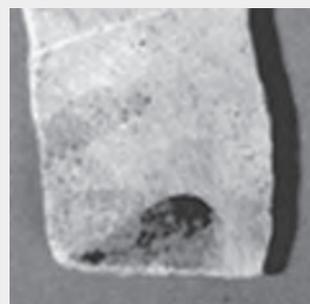
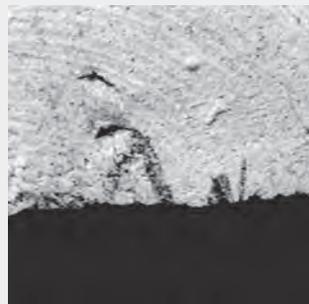
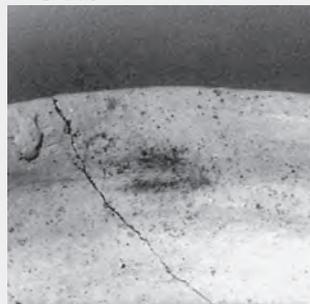
遺構外



28号遺構



30号遺構



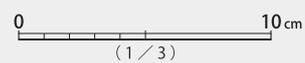
1号遺構



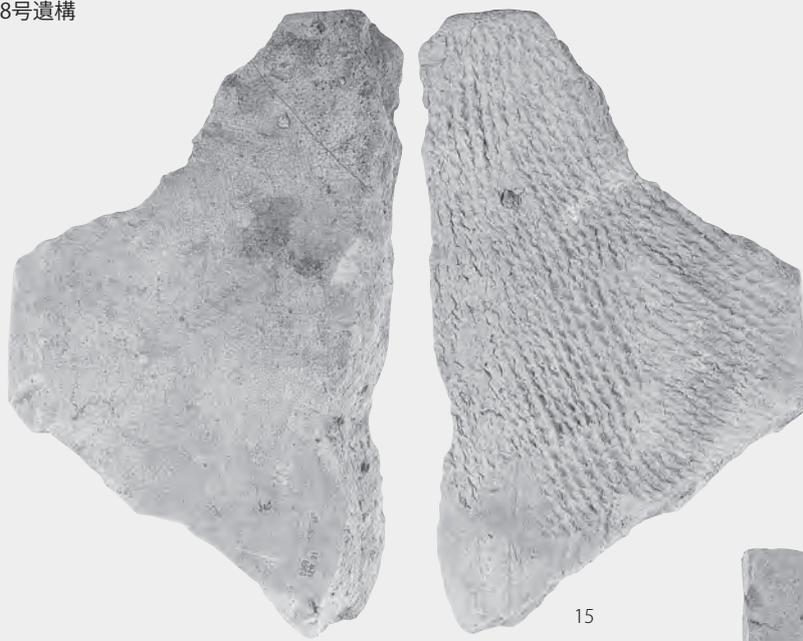
2号遺構



16号遺構



28号遺構



15



16



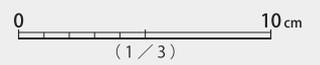
17



19



18



29号遺構



30号遺構



0 10cm  
(1/3)

31号遺構



35号遺構



20号遺構



30号遺構



28 (1/2)

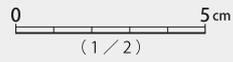
29 (1/2)

30 (1/2)

37号遺構



遺構外



4 (1/2)

14 (1/2)

3号遺構



11

15号遺構



7

20号遺構



13

29号遺構



24

30号遺構



26

遺構外



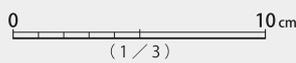
12



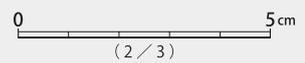
13



15



(1/3)



(2/3)



# 報告書抄録

ふりがな	いちほらしいなりだいいせきえるはちちてん
書名	市原市稲荷台遺跡L8地点
副書名	
巻次	
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第38集
編著者名	木對和紀
編集機関	市原市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436(41)9000
発行年月日	2017年3月10日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
いなりだいいせき 稲荷台遺跡 えるはちちてん L8地点	ちほけんいちほらしい 千葉県市原市 やまだぼし 山田橋3丁目11-33	12219	792	35° 30' 22"	140° 07' 20"	20151201 ～ 20160205	719m <sup>2</sup>	集合住宅 新築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
稲荷台遺跡 L8地点	包蔵地	弥生時代 古墳時代  平安時代  中世 近世 時期不詳	竪穴住居跡 9軒 竪穴住居跡 4軒 貝ブロック 1基 竪穴住居跡 8軒 溝 1条 溝 1条 溝 1条 土坑 10基 竪穴住居跡 1軒	縄文土器（早期） 弥生土器（後期） 土師器・須恵器（古墳 ～奈良・平安時代） 灰釉陶器・中世陶磁器 石器（縄文・弥生） 土製品（土製支脚・布 目瓦など） 鉄製品（鎌など）	「二」と記載された墨 書土器4点が出土してい る。

要約	稲荷台遺跡北端に位置するL地点の調査を実施し、弥生時代から平安時代にかけての竪穴住居跡等を検出した。平安時代の遺構は、灰釉・緑釉陶器や墨書土器等を多数検出し、国府関連遺跡と捉えられているE地点の遺構と時期的にも一致し、E地点では確認されなかった「二」と記載された墨書土器の検出から、稲荷台遺跡出土の文字資料に、新たな資料を追加することができた。
----	--

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第38集

## 市原市稲荷台遺跡L8地点

平成29年3月10日発行

編集 市原市埋蔵文化財調査センター  
市原市能満1489番地

発行 張能徳博  
千葉県市原市教育委員会  
市原市国分寺台中央1-1-1

印刷 三陽メディア株式会社  
市原市五井東3-47-10

